

令和3年(2021年)度 現代社会学部 自己点検評価報告書 —教育研究活動の実績—

1. 概 要	p. 2
2. 概 況	p. 10
3. 教養教育.....	p. 13
4. 語学教育・国際交流.....	p. 15
5. 専門教育.....	p. 26
6. 情報教育.....	p. 38
7. 留学生教育.....	p. 41
8. 教育改善・FD活動.....	p. 45
9. 学生生活・生活支援.....	p. 50
10. キャリア支援.....	p. 53
11. 地域交流・地域貢献.....	p. 58
12. ホームページ・広報活動.....	p. 61
13. 研究活動.....	p. 65
14. 後援会・保護者対応.....	p. 70

令和4年7月

1. 概要

1. 実績・現状

(1) 学部教育目標の達成

富山国際大学は「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会および地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。平成 20 年度より発足した現代社会学部の教育目標は、「これからの 21 世紀を支える、国際的センスを持つとともに、地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」ことであり、14 年間継続してようやく学部として地域や高校への存在感が定着してきた。

地域のグローバル化に対応できる人材の育成に貢献するため、観光専攻、環境デザイン専攻、経営情報専攻に加え、新たに 4 つ目の専攻として地域のグローバル化に対応できる人材育成を強化するため、英語国際キャリア専攻を発足させ、2019 年度には 2 年生 7 名が海外留学をし、2020 年度は新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」と略記。）の影響で 2 年生 9 名がオンライン留学を行なった。さらに、2019 年度からは情報教育を強化するため新たなカリキュラムを導入した。各専門教育を通して、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指して教育研究活動を実施している。

また、2018 年度からスタートした第二次アクションプラン（2018-2022）の 4 年目を迎え、入学定員の確保を第一目標に、受験生に選ばれる学部として存続するよう一層の教育の充実を目指している。令和 2 年度、令和 3 年度の入試では受験者が増加したにもかかわらず、多くの辞退者を出し、定員をわずかに満たさない状態が続いたが、令和 4 年度入試では、推薦入試で多くの入学予定者を確保し、最終的には定員を確保することができた。（令和 2 年度 114 名、令和 3 年度 113 名、令和 4 年度 125 名）。今後も、教育内容の充実、施設、通学環境などの点で学生の満足度が向上するように、教員が一丸となって引き続き努力する必要がある。

学園の教育目標である国際化と情報化に対応する人材の育成を大学教育においても強化し、令和 3 年度からスタートした情報スペシャリスト養成コースを推進する。

(2) 分野別特色

1) 教養教育

本学の教育理念・目標に沿い、人間・社会・自然の各面から理解を深める科目群、外国語、情報系、キャリア系の科目群、領域を超えて学ぶ科目群を設けるとともに、きめ細やかな教育実践を可能にする教養演習科目を開講している。自校教育についても「現代社会概論」で実施し、学長、学部長による講義を通して学生たちの大学に対するブランディング意識の定着を目指している。

教養ゼミでは初年次教育の徹底、キャリアデザイン講座では e ラーニングシステムの活用による SPI 教育にも力を注いだ。また、アカデミック・アドバイザー会議を定期的に開催し、ゼミ生の状況や運営について情報交換を行った。

2) 語学教育・国際交流

国際人としての能力の向上を目指すため、能力別クラス編成による「基礎英語」の必修化、TOEIC や英語国際キャリア専攻設置に伴う英語のみによる授業などを導入した英語力の向上、東アジア地域での国際活動に必要な「中国語」「韓国語」「ロシア語」など副専攻プログラムにも対応できるような語学力の向上をめざし、1 か月以上の留学などにも対応できるようカリキュラムを整備している。TOEIC については、正課授業との連携や、オンライン TOEIC IP テストの初めての導入によって受験者を増やすことができています。

しかし、2021 年度も長引く新型コロナの影響で多くの海外留学・海外研修を中止せざるを得なかった。一方で、長期海外留学が進級要件である英語国際キャリア専攻では、2 年生

5名が年度末の3月に協定校の米ミズーリ州立大に留学した。また協定校からの学生受け入れも長らく中止していたが、2022年度からの新学期に向けて、中国から1名の留学生が来日に向けた準備を進めている。

3) 基盤科目

2021年度からカリキュラム改正を行い、特にこれまでの学部共通科目の位置付けを見直した。従来の教養科目、学部共通科目、専攻科目という分類では、学部共通科目の位置づけと同科目からの必要単位数の換算方法が複雑であったため、これを見直し、教養科目、基盤科目、専門科目という3層構造を明確にし、各科目群からの必要な履修単位数を明確にした。基盤科目の特徴は、現代社会の特徴や課題を学ぶための基盤である基本的な知識を修得することにある。

4) 専門教育

地域づくり実習の発展形として専攻ごとの「実習」を必修化して、地域課題解決能力を育成するため、地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、専攻教育の理解を深めている。海外での研修については2021年度も新型コロナのために実施することができなかった。経営情報専攻では情報教育科目の新科目を2019年度に開設し、3年目を迎えた。大学教育の総まとめである卒業研究論文の作成では、「卒業論文要旨集第6巻」を発刊し、全119件の論文の内、地域課題に取り組んだテーマは45%（53件）であった。

5) 情報教育

情報教育の強化を進めている中、前年度から開講された「情報社会と情報倫理」の受講は72人（学年在籍数の62.0%）に達しており、情報化の進展に伴う各種の社会的課題を多くの学生が認識していることを示している。また、「情報システム論」・「eマネジメント論」・「情報技術論」の3科目を受講することで国家資格「ITパスポート」試験の準備ができるため、同資格を取得する学生の数も増えている。

2020年度に実施した開学30周年記念シンポジウムのフォローアップイベントとして、情報シンポジウム「地域におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展に向けて」を9月31日（土）に実施した。実施日近くまで新型コロナウイルスまん延防止措置がとられていたため、オンラインでの開催としたが、会社員・公務員・学生など約70名が参加し、東京都・神奈川県・石川県などからも参加者があった。

内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が推進する政策に対応した「数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム」を2021年度から開始した。全学の方針として、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的としている。

また、情報教育をさらに強化することを目的として「情報スペシャリスト養成プログラム」も2021年度から開始した。国家資格「ITパスポート」の上位資格である「情報セキュリティマネジメント」と「基本情報技術者」の取得を目指すものである。

6) 留学生教育

2020年度は学部留学生、交換留学生の合計が30名であったが、長引く新型コロナの影響で、2021年度は前期13名、後期10名という学生数にとどまった。

日本語教育はプレースメントテストの成績によりクラス分けしている。学部留学生は全員卒業までに日本語能力検定試験でN1合格を目指しており、その方針は留学生に少しずつ浸透しているが、2021年度、卒業した留学生9名のうち日本語能力検定の1級合格者は3名に留まり、まだ努力が必要である。

日本の地域社会と触れ合う体験活動は、新型コロナのため自粛せざるを得なかった。長引く新型コロナの影響で、心のバランスを崩した留学生や親元から離れてホームシックになった留学生もあり、その分の指導とアドバイス、見守ることは大変だったが乗り越えられた。

他に日本語の勉強、日本の文化、伝統、生活習慣、日本の礼儀作法、困りごとについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導とアドバイスも随時行われた。

7) 教育改善・FD 活動

学部学務委員会、学部 FD 委員会が中心となり教育改善・FD 活動を推進した。学部 FD 研修では、授業評価アンケートの結果について全教員が知見を共有するとともに、抜粋したものを学生全員が閲覧できるようにした。

全学 FD 研修では、Teams の教育における活用、Google スケジュールの利用と共有方法、商品・サービスの創出におけるデータサイエンスと AI の活用、労働契約とキャンパス・ハラスメント及び個人情報の取り扱いとディプロマ・ポリシーの可視化について、計 4 回実施した。

8) 学生活動・生活支援

今年度も新型コロナのため各種行事・イベントが中止されたが、一方で、感染防止対策に留意しながら、大学オリジナル日本酒造り、オンラインを通じた大学祭の開催などで学生主体の活動も進められた。学内コンビニは、学生と教員との協働で、9 月に本格オープンを迎えた。学生生活アンケートの結果では交通の便の悪さを指摘する声があったが、学生生活の満足度について、「非常に満足である」学生も増加している。また、後輩に大学を勧めたいかという質問に対しても、勧めたいと考える学生が増加傾向にあった。

学友会やクラブ会などの代表者と、学長等の教員との意見交換会を実施し、大学構内、学内施設の環境整備に関する要望(2 号館の活用、畜産場からの異臭への対応など)や子ども育成学部との交流促進への要望、授業内容やカリキュラムに関する質疑応答があり、適宜改善できるよう検討することとした。学生生活支援チームによる学生支援は、学期開始前にミーティングを行い、配慮を要する学生の状況の共有、学生支援および留学生の指導に関する課題抽出、対応策の検討を行った。

9) キャリア支援

キャリア支援体制として、初年次よりキャリア教育を導入しているが、配慮を要する学生が一定数おり、こうした学生へはキャリア支援センター職員とゼミ担当教員が連携しながら対応に当たっている。

新型コロナ禍にもかかわらず就職環境はよく、就職希望者 108 名に対して内定率は 100% となった。公務員(射水市、南砺市、富山県警察)・金融・一般企業への内定状況は概ね順調であり、本学から就職実績のなかった情報通信業への就職者も出ている。公務員講座については、講座を設置して 8 年目に入り、外部支援を WEB で受講する方法で対応し、きめ細かな個別対応をしている。インターンシップについては、実働日数 5 日間以上の参加者が 38 名(内 17 名がオンラインインターンシップ)だった。海外インターンシップについては、新型コロナ禍により実施できなかった。

10) 地域交流・地域貢献

主に本学園サテライト・オフィス「地域交流センター」で実施している、エクステンション・カレッジは、新型コロナのためオンラインでの実施となり、開講は語学講座(英語)のみとなった。地域連携の活動は教員ごとに行っており、全体的な把握と連携を強化するために、よりいっそう地域交流センターへの情報集約が望まれる。

11) HP・広報活動

2021 年度のホームページへのアクセス件数は、年間アクセスユーザ数が約 110 千件、年間訪問件数が約 238 千件、年間ページビュー数が約 780 千件だった。ウェブサーバのクラウド化に伴ってアクセス件数のカウント方法が変わったため、オンプレミス時代との単純な比較はできない。アクセスユーザの多くが mobile 端末(携帯など)からアクセスしていること、また年間のアクセス頻度をみると 4 月と 1~2 月にアクセス頻度が高くなっていることが読み取れた。

現代社会学部に関する新聞記事掲載件数は、計 83 件であり、放送で取り上げられた件数は、テレビでは 5 件、ケーブルテレビでは 2 件、ラジオでは 1 件であった。

12) 研究活動

学会発表の件数は 17 件であり、2020 年度の 12 件からやや増加した。学術研究論文数で

は、2020 年度が 11 件であったのに対して、今年度は 13 件であり、ここでもやや増加している。科研費採択件数は、2017 年、2018 年においては新規採択はゼロ件、2019 年度、2020 年度には 1 件であったが、今年度は新規 2 件を含む代表研究が 4 件、さらに分担研究が 8 件とやや活発化の兆しを見せている。

13) 後援会・保護者対応

2021 年度も新型コロナ禍のため対面での総会は開催されず、郵送による審議が行われた。保護者懇談会は、前期は 7 月、後期は 10 月から 11 月にかけて対面や電話相談で各 30 数件の相談があり、教職員による個々の学生の指導の実態に対する保護者の関心の高さが伺えた。

2. 今後の課題

(1) 入学定員の確保

令和元年度入学者数は 146 名と大幅に定員を上回った。一方、不本意入学や学習意欲の低い場合などを含め退学者も増加したが、2020 年度は総定員 480 名を満たすことができた。本学への志願者は増加しているものの、国公立大学などの他大学との併願者が増えているため、特に共通テスト利用型入試での歩留まりを予測することが非常に難しくなっている。

令和 3 年度入学者は 113 名であった。英語国際キャリア専攻生は、2019 年度は当初 15 名の希望者があったが、転専攻を希望する学生が続き、就職実績などの課題もある。本学の受け入れ学生の質（推薦と一般入試合格者の学力差）改善と入学者の定員確保の両面から戦略的な取り組みが必要である。

(2) 少人数教育の魅力を活かした指導

近年の入学者の学力は着実に偏差値が高くなっている一方で、一人ひとりが目標を持ち、モチベーションを持続させる教育指導が求められる。教員自身の研究を教育に反映させることと、多様な学生に対する指導についての研修がますます重要になっている。

(3) 情報教育と国際教育を軸とした教育の充実

情報教育については、IT に強い情報教育のカリキュラムと資格提供の充実に向けた準備を進めたので、今後は資格取得に向けて着実な成果をあげる必要がある。国際教育については、英語国際キャリア専攻の発足により、語学や国際教養系科目が充実してきたが、英語国際キャリア専攻を希望する学生は多くなく、学部の国際化の推進とともに、当該専攻の魅力度を高める必要がある。

(4) 教員の研究

若手教員が増え、研究内容も充実してきたが、科研費などの採択実績や投稿論文数は少なく、今後は教員の研究環境の確保が課題である。教員同士が切磋琢磨し刺激を与え合うような機会を設ける。

(5) その他

少子化の影響により入学者数も減少傾向にある中で、2019 年度は 146 名、2020 年度は 114 名、2021 年度は 113 名の入学者を受け入れることができた一方で、学生自身や保護者の家庭環境などは多様であり、経済事情、家庭での親子関係などへの対応に苦慮する事例が出てきている。事案によっては早期に大学の顧問弁護士との事前の情報共有、相談などが必要になっている。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2021 年度実施内容と評価

①教養教育 指針 3(4) 基礎学力の向上を目指す tuins.e-ラーニングの活用については、キャリア・デザイン a の課題として導入し、全 1 年生が e-learning を活用した。（評価：○）

②語学教育・国際交流

1 指針 2(1) 英語国際キャリアの 2 年生 5 名が、新型コロナが一定の落ち着きを見せた 3 月、米ミズーリ州立大学へ留学した。期間は 4 カ月間。ほかに、環境デザイン専攻の学生

- 1 名も同大学に期間 10 か月の予定で留学した。（評価：○）
- 2 指針 2(1) 学部の海外体験については、異文化研修、海外インターンシップなど短期のものは、新型コロナが収束しない状況のもと断念したが、3 月になって学生 6 名を米国に長期留学に送り出したことは大きな進展だった。（評価：○）
- 3 指針 2(2) コロナの感染状況に左右されがちな学内での大規模な TOEIC IP テスト試験実施を避け、2021 年度は初めてオンライン TOEIC IP テストを導入し、夏と冬の 2 回実施した。ただし、2021 年度は TOEIC 授業で履修生に対し、IP オンラインテストを授業の一環として受験することを義務付けたことから、そちらに受験者が吸収され、国際交流センター経由の受験者は 9 名にとどまった。結果は 470 点以上 600 点未満が 2 名、600 点以上 730 点未満が 2 名、730 点以上が 2 名だった。975 点が 1 名いたことを特記したい。（評価：◎）
- 4 指針 2(2) Global café (English café) は前年同様、コロナ禍で運営できない時期もあったが、年間では約 600 人の利用があった。また、両学部対象の English Camp は 14 名の学生の参加があった。（評価：○）
- 5 指針 2(2) グローバル人材育成プログラムは現社から 2 名（4 年次生）が終了した。（評価：△）
- 6 指針 2(2) 中国人留学生が、日本中国友好協会主催の「日中大学生スピーチ交流会」に応募者 230 名の中から選ばれ、東京での交流会に参加した。（評価：○）
- 7 指針 2(3) 新型コロナの影響により、今年度は海外提携校との交渉は厳しく、新たな協定の締結はない。協定校の数は従来どおり。（評価：○）
- 8 指針 2(3) コロナ禍で出発の時期は半年ほど遅れたものの、3 月から英語国際キャリア専攻の 2 年生 5 名と環境デザイン専攻の学生 1 名が協定校の米ミズーリ州立大に留学した。（評価：◎）
- 9 指針 2(3) 米国の協定校から 2022 年度後期に 1 名交換留学の希望が寄せられており、受け入れに向けて準備を進めている。（評価：—）
- 10 指針 2(4) コロナ禍で新たな留学生受け入れは実現しなかったが、2021 年度春に受け入れ予定だった中国の学生を、2022 年度春から受け入れられることになった。（評価：—）
- 11 指針 2(4) 9 名卒業した留学生のうち、日本語能力検定 1 級取得者 3 名、2 級取得者 6 名で、目標の 50% 以上の取得とはならなかった。（評価：○）

③専門教育

- 1 観光 指針 2(1) 各専攻によるグローバル・キャンパスが単位化されたことから、さらに海外体験者増を目指したが、2021 年度はコロナ禍によりプログラム自体を取りやめた。（評価：△）
- 2 環境デザイン 指針 2(1) 海外に渡航することができなかったため、環境デザイン専攻で計画したグローバル・キャンパス（デンマーク、ロンドン&グラスゴー）について実施はできなかった。（評価：△）
- 3 経営・情報 指針 2(1) 新型コロナ問題等、海外渡航に関する制限が懸念される中、中国における新しいグローバルキャンパスプログラムを実施可能か検討する。（評価：△）
- 4 英語国際キャリア 1) 指針 2(1) 新型コロナが落ち着きを見せた 3 月、専攻の 2 年生 5 名を米協定校である米国のミズーリ州立大学に留学させることができた。期間は 8 月初旬までの約半年。（評価：○）
- 2) 指針 2(2) TOEIC IP テストで専攻志望の 1 年生の得点は 200 点台から 600 点台までかなりばらつきがあったが、互いに切磋琢磨する良い雰囲気があり、この中から年度末に TOEIC の公開テストで 800 点超の高得点を取るものが出た。また、4 年生でも公開テストで 800 点超を取った学生が出た。（評価：◎）

④情報教育

- 1 指針 1(5) 情報教育研究センターと連携し、外部接続ネットワークを 10Gbps に増強した。また、万一のネットワーク障害の際の迅速な回復を達成するため、短大と大学を合わせた外部接続ネットワーク運用業者の一本化を行った。（評価：○）
- 2 指針 2 (6) 「数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」「情報スペシャリスト養成プログラム」を 2021 年度から開始した。（評価：○）
- 3 指針 2 (7) 学園情報教育研究センターと密に連携して教職員のスケジュール共有、施設予約状況の共有を行った。（評価：○）
- 4 指針 3 (3) 情報教育研究センターと連携し、外部接続ネットワークを 10Gbps に増強した。また、常駐 SE 2 名が学生のサポートを行い、ICT 活用の底上げをはかった。（評価：◎）
- 5 指針 4 (1) 「情報シンポジウム」を開催し、本学の取り組みをアピールした。（評価：○）

⑤留学生教育

- 1 指針 2(4) 新規の入学留学生数 10 名程度を目指したが、新型コロナ拡大で中国の協定校から 2+2 の編入留学生を 1 名を受け入れるにとどまった。これは、新型コロナ対策で政府が新規入国を停止する以前に入国済だった学生。（評価：—）
- 2 指針 2(4) 9 名卒業した留学生のうち、日本語能力検定 1 級取得者 3 名、2 級取得者 6 名で、目標の 50% 以上の取得とはならなかった。（評価：○）
- 3 指針 2(4) 9 名卒業の留学生中、大学院進学者 1 名、日本国内就職者 5 名、帰国者 3 名。（評価：○）
- 4 指針 2(4) チューター制度の活用による外国人留学生と日本人学生の交流については、新型コロナの影響により、後期は通学禁止となった時期があり、活動が全て停止した。前期はチューター 4 人(外国人 2 人・日本人 2 人)。オンライン授業のおかげで、子ども育成学部の学生たちも初めて日本語授業にチューターとして参加できた。（評価：○）

⑥教育改善・FD 活動 指針 3(4) 基礎学力の向上を目指す「tuins.e-ラーニング」の活用については、2020 年度よりキャリア・デザイン講座 a の課題として導入し、全員満点を取るまで繰り返し e ラーニングをすることを課題にしたため、利用率は大幅に上昇している。（評価：○）

⑦学生生活・生活支援 指針 3(3) 学生支援チームの会議を 2 回開催し、情報交換及び課題と対策の意見交換を行った。（評価：○）

⑧キャリア支援 指針 3(5) OB との交流については、後期に学内で富山県の協力の下に「T ターンカフェ」を実施して就職活動を前にした 3 年生と卒業生との交流の機会を持った。また、2 月に開催した学内企業研究会には人事担当者として本学卒業生の参加が複数企業であった。また特別に本学卒業生を同行して参加し、後輩にあたる在學生に自社紹介や質疑応答にあたらせる企業も何社かみられた。（評価：○）

⑨地域交流・地域貢献 指針 3(2) 「夢への架け橋事業」では学部から 5 件の事業が実施され、大学オリジナル日本酒プロジェクトや TUINS サッカー教室など、学生による地域活動を促進することができた。（評価：○）

⑩HP・広報活動

1 指針 4(1)

- ・大学案内、ホームページを利用してアピールした。SNS の利用は少なかった。（評価：○）
- ・大学案内において、巻頭に卒業生ページを設け、なりたい自分になれた学生たちを紹介した。産学官連携や学外実習などの教育実績や子ども育成学部の教員採用実績などをチラシ、DM、新聞、ホームページなどで積極的にアピールした。（評価：○）

2 指針 4(2) 大学ホームページや新聞・テレビ等を活用した教育・研究等の情報発信を促進した。SNS や Youtube の利用は、専従の更新スタッフがいないため思うほどできなかった。（評価：○）

(2) 2022 年度実施予定項目

①教養教育 指針 3(4) 引き続き 2021 年度と同様の方法で実施する。

②語学教育・国際交流

- 1 指針 2 (1) 「グローバルスタディーズ」 6 名、「インターナショナルプログラムズ」数名を派遣見込み。
- 2 指針 2 (2) オンライン版の TOEIC IP テストを年間で 3 回実施予定。English Camp は前年同様、宿泊を伴わない形式で実施予定。
- 3 指針 2(2) Global Café (English Café) は、留学生の受け入れが少しずつ拡大することが期待されている折、学内の国際交流の場として一層の利用拡大を目指す。
- 4 指針 2 (2) 数名程度のグローバル人材育成プログラム履修者を目標に定めたが、海外研修、留学は引き続き慎重に行うものとする。
- 5 指針 2 (2) 前年度まではスピーチコンテストが開催中止になるケースが多かったが、再開されるものがあれば積極的な参加を促す。
- 6 指針 2 (3) 現存の協定校との関係を活性化することを最優先する。現在の協定校数の目標は再考が必要と思われる。
- 7 指針 2 (3) 2022 年度 4 月から中国の協定校から 1 名受け入れ予定。また、後期には米国の協定校から交換留学生を受け入れる可能性がある。
- 8 指針 2 (3) 「国際交流危機管理マニュアル Risk Management (学生用)」の活用を徹底する。「海外派遣留学緊急重大事故対応マニュアル」をアップデートする。
- 9 指針 2 (4) 4 年生の N1 取得 100%を目指す。

③専門教育

- 1 観光 指針 2(1) 海外に渡航することができないため、代替する方法としてオンラインでの交流の可能性を探る。また、2023 年度に向けて観光実習Ⅲ (旧グローバル・キャンパス) のプログラム設計を開始する。
- 2 環境デザイン 2022 年度は、SDGs に関して、SDGs サークルと連携し活動を推進していく。地域での活動は、それぞれの研究室の特性に応じて地域連携を図り、「環境デザイン実習」の成果発表や卒業論文に結び付ける。エコ検定の合格率を向上させるため、不合格者に対する取り扱いを決定する。また、総合的には現代社会学部の変化 (情報化分野推進、国際分野推進) に対応した環境デザイン専攻のあり方を常時模索する。
- 3 経営・情報 指針 2(6)については、新たに整備されたプログラムを着実に進めるとともに、学部で開講されているできるだけ多くの授業でツールを使った情報化を促進する。
- 4 英語国際キャリア
1) 指針 2(1)グローバルスタディーズで 6 名を海外協定校に派遣予定。前年、専攻の 2 年生 5 名全員を 1 校 (米ミズーリ州立大学) に留学させたのに対し、2022 年度は留学先が 4 か国 4 校にわたる。
2) 指針 2(2) 8 月初旬に米国留学から帰国予定の専攻生に TOEIC 受験を促すとともに、英語力の一層の向上を目指すよう指導する。

④情報教育

- 1 指針 2 (6) 「数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム」を開始する。
- 2 指針 2 (7) ICT を利活用した教育を推進するための学内情報ネットワーク基盤を再整備し、学生サービスの質向上を実現する」については、内部ネットワークの再増速 (1Gbps→10Gbps) を行う予定である。また、教職員の情報共有システムとして Google Workspace の利用を推進する。

⑤留学生教育

- 1 指針 2(4) 正規の留学生募集は、新型コロナ感染拡大の影響で先送りされていたが、感染状況を見ながら可能な範囲での受け入れを目指す。
- 2 指針 2(4) 留学生は全員卒業まで日本語能力検定試験 1 級の資格を取得できるよう支援策を

講じ、全員の資格取得を目指す。

3 指針 2(4) 卒業後に日本国内での大学院進学や日本企業への就職の促進を図る。6割の達成を目指す。

4 指針 2(4) 外国人留学生と日本人学生の交流事業に学生のアイデアを募り、それを実現することで、制度に関心を向けてもらい、外国人留学生と日本人学生の交流を促進する。

⑥教育改善・FD活動 指針 3(4) tuins.e-ラーニングの活用については、引き続き 2021 年度と同様の方法で実施する。

⑦学生生活・生活支援 指針 3(3) 支援チームによる打ち合わせを学期ごとに実施し、配慮の必要な学生の支援につなげる。また、支援の必要な学生のニーズに応じて、子ども育成学部・福祉系の教員に相談できる体制を整備する。

⑧キャリア支援

1 指針 3(5) 就職活動支援のため例年実施している企業訪問については、今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、個別での企業訪問が困難なため、大学コンソーシアム富山が主催する合同企業訪問に参加を呼び掛ける。ただし、参加の際には、新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりとった上で参加するよう指導する。

2 指針 3(5) OB との交流については、前期に卒業生をキャリア支援講座 a に講師として招き、業務内容や企業紹介をしてもらい、3年生の企業研究や職場訪問の機会を設ける。後期には、今年度も「T ターンカフェ」を実施して3年生と卒業生との交流の機会を設ける。また、2月に開催予定の学内企業研究会参加予定の企業に可能であれば卒業生を同行していただくよう依頼する。

3 指針 3(5) キャリア育成講座については、これまで現代社会学部 2 年次選択科目である「地域企業講座」の授業内容が、2022 年度より選択科目から必修科目として「キャリア育成講座」が開講予定である。そのため、早期の企業研究に繋がることが期待される。

⑨地域交流・地域貢献 指針 3(2) 2021 年度成果を学生へ周知し、「夢への架け橋」事業で学部からの応募者が出るように、教員にも積極的に協力を呼びかける。

⑩HP・広報活動

1 指針 4(1)

- ・大学案内、ホームページ、SNS 広告などを利用しアピールする。
- ・全面改訂予定の大学案内やホームページ、テレビ、チラシ、DM、新聞などで、「なりたい自分になれた卒業生」たちを紹介し、産学官連携やフォーラム異文化研修、留学、学外実習などの教育実績や子ども育成学部の教員採用実績なども、積極的にアピールする。

2 指針 4(2)

- ・大学ホームページや新聞・テレビ等を活用し、教育・研究等の情報発信を促進し、大学のイメージアップや学生確保につなげる。ホームページの年度更新をしっかりと行い、大学の取り組みがより明確にわかるよう工夫する。また SNS や Youtube を利用した大学の取り組みの PR を充実させる。

2. 概況

1. 実績・現状

(1) 学生の状況

1) 学部生の概要

2021年度富山国際大学在学者数（基本調査）

20210501現在

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
1 年生	現代社会	現代社会	113	71	42	104	9	64	40	7	2
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		113	71	42	104	9	64	40	7	2

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
2 年生	現代社会	現代社会	114	72	42	104	10	65	39	7	3
	休学		2	2	0	2	0	2	0	0	0
	合 計		116	74	42	106	10	67	39	7	3

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
3 年生	現代社会	現代社会	140	87	53	122	18	71	51	16	2
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		140	87	53	122	18	71	51	16	2

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
4 年生	現代社会	現代社会	124	84	40	99	25	69	30	15	10
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		124	84	40	99	25	69	30	15	10

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
全学年	現代社会	現代社会	491	314	177	429	62	269	160	45	17
	休学		2	2	0	2	0	2	0	0	0
	合 計		493	316	177	431	62	271	160	45	17

※表内人数には交換留学生を含まない。

※合計には休学者数を含む

2) 海外学生の出身地 (2021 年 5 月 1 日現在)

国名	1 年	2 年	3 年	4 年	計
中国	0	0	2	3	5
ベトナム	0	0	1	3	4
ネパール	0	0	1	0	1
計	0	0	4	6	10

* 交換留学生、研修生、休学生を含まない

* 2+2、学部生を含む

3) 県外学生の出身地 (入学者)

令和3年度富山国際大学入学試験状況 (学校法人基礎調査「調査票区分113」資料)

令和3年度入学試験 高等学校卒業年度別 入学志願者数

	令和3年3月卒		令和2年3月卒		平成31年3月卒		平成30年3月卒		平成29年3月卒		外国の学校卒		専修学校の高等課程		その他(認定等)		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
現代社会	160	131	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	168	138	306
子ども育成	95	213	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	105	215	320
計	255	344	18	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	273	353	626

※留学生については、国内の学校等(富山情報ビジネス専門・富山国際学院)を卒業していても、「外国の学校卒」として扱う。

令和3年度入学試験 高等学校卒業年度別 入学者数

	令和3年3月卒		令和2年3月卒		平成31年3月卒		平成30年3月卒		平成29年3月卒		外国の学校卒		専修学校の高等課程		その他(認定等)		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
現代社会	68	40	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	71	42	113
子ども育成	23	78	2	1													25	79	104
計	91	118	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	96	121	217

※留学生については、国内の学校等(富山国際学院)を卒業していても、「外国の学校卒」として扱う。

富山国際大学令和3年度出身校所在地別入学者数

学部	性別	富山	秋田	新潟	石川	長野	京都	奈良	愛媛	宮崎	沖縄	認定試験	計
現代社会	男	64	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	71
	女	38	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	42
	計	102	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	113
子ども育成	男	22	0	2	1	0	0	0	0	0	0		25
	女	78	0	0	1	0	0	0	0	0	0		79
	計	100	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	104
計	男	86	1	3	2	1	1	1	0	1	0	0	96
	女	116	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	121
	計	202	1	3	3	1	1	1	1	2	1	1	217

※通信制のN高等学校は、調査書に書いてある所管の都道府県にて計上。

※第一学院高等学校および星槎国際高等学校は、通学した学校の所在地ではなく、調査書に書いてある所管の都道府県にて計上。

(2) 教職員

1) 教員組織 (2021 年 5 月 1 日現在)

現代社会学部教員数

区分	人数	内訳
現代社会学部専任教員	21名	教授12、准教授7、講師1、助教1
学園内兼任・兼任講師	4名	子ども育成学部4
学園外兼任講師	22名	客員教授6名(尾畑、川田、後藤、才田、丁子、藤田)を含む
計	47名	

2) 事務職員 (2021 年 5 月 1 日現在、東黒牧キャンパス)
東黒牧キャンパス事務職員数

区分	人数	内訳
専任事務職員	22名	部長1、参事1、課長4、係長3、主査4、主事7、運転手1
契約職員	5名	職員5
計	27名	

3. 教養教育（教養授業、教養ゼミ、教育指導）

1. 実績・現状

（１）教養授業

- 1) 教養科目として、「人間理解科目」3科目、「社会理解科目」6科目、「自然理解科目」2科目、「領域を超えて学ぶ科目」3科目、「外国語科目」12科目、「日本語科目」10科目、「情報基礎科目」2科目、「キャリア・実務科目」9科目、「教養演習科目」4科目を開講している。
- 2) 上記教養科目について、学生の授業評価における「総合評価」は、5点満点中、ほとんどが4点台であり、授業に対する満足度は高かった。

（２）教養ゼミ

- 1) 教養演習Ⅰ（1年ゼミ）では、4月の合同教養演習において「大学生活のためのツールブック」を活用し、図書館の利用や論文・レポートの書き方等を指導した。そして、後期は北日本新聞社より講師を招聘し、新聞の読み方についての講義を実施するとともに、2～3のゼミ合同で、新聞記事を題材に討論するディスカッション方式の授業を実施した。また、全てのゼミで期末レポートを課題として提出することとし、ゼミならではの個々の学生への指導のもと、アカデミック・ライティングスキルの向上に努めた。
- 2) 教養演習Ⅱ（2年ゼミ）では、文献の輪読、フィールドワーク、調査したことのまとめと発表およびレポートの作成などを実施した。さらに合同教養演習として、「わたしから始めるSDGs 飢餓をゼロに！」と題してHungerZero（日本国際飢餓対策機構）の近藤 高史氏による講義が行われた。この講義は、学生にNGOの視点から国際協力について考える機会を提供した。
- 3) 大学祭では例年、教養演習Ⅰと教養演習Ⅱのゼミ活動内容を示すパネル等の展示を行っていたが、今年度は新型コロナのため展示の実施は中止とした。

（３）教育指導

- 1) これまで同様、1年、2年ゼミ担当者において、アカデミック・アドバイザー連絡協議会を月1回程度実施し、ゼミ生の様子、ゼミ運営の方法等について、定期的な情報交換を行うとともに、個別的な配慮や指導を要する学生への対応について検討や確認をした。これに加えて今年度は新型コロナ問題対応のためのリモート授業期間などもあり、学生へのきめ細やかな対応をするために教員間の情報共有を徹底した。
 - 2) ゼミ担当教員はそれぞれ、ゼミ生の授業への出欠状況を把握するよう努め、授業やサークル活動面での情報を関係各所から得た上で、適宜、学生へのアドバイスや指導（必要な改善のための指導等）を行った。
 - 3) 保護者との連携のために、ゼミ担当教員との懇談を希望する保護者からの相談等に応じるとともに、個別対応が必要と考えられる学生の保護者との面談等も行った。教員の側で保護者との懇談が必要と考える場合には、保護者への成績表送付の際に、ゼミ担当教員によるコメントを付して、懇談会出席の呼びかけ等を行っている。
- ＊ なお、本年度においての退学者は、1年生1名（心身耗弱1名。退学率0.88%）、2年生4名（他教育機関への転出2名、就職2名、退学率3.5%）である。（2022年3月31日現在）。

2. 今後の課題（一定程度の改善がなされたものの、引き続き課題とされるものを含む。）

（１）教養授業

- 1) 授業評価アンケートの結果を踏まえた継続的な授業改善への取組。

- 2) ディプロマ・ポリシーや他の授業科目との関連を意識した授業内容のさらなる工夫。

(2) 教養ゼミ

- 1) 学生の文章作成能力、プレゼンテーション能力の一層の涵養。
- 2) 様々な学習上の困難や問題等を抱えた学生や、GPA の低い学生への指導等のため、アカデミック・アドバイザー連絡協議会と授業担当者、保健管理センターとの一層の連携強化。
- 3) 「より良いゼミ運営」を目指すための教員間における情報交換の拡充に向けた取組。

(3) 教育指導

- 1) 学生の留学、学外の長期実習参加など、個の学びを促す方法の検討。
- 2) とくに何らかの支援が必要と考えられる学生については、保護者との定期的な懇談会以外にも、適宜、本人や保護者との懇談を行う場を設けること。

(4) 全体に共通する課題

- 1) 「どの程度授業理解が進んでいるのか」または「いかなる教育成果があるのか」を、どのように測るのか（測ることができるのか）について、一定の指標を示すことができるかの検討。
- 2) 教養演習Ⅰと教養演習Ⅱの連続性についての検討。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2021 年度実施内容と評価

指針 3(4) 基礎学力の向上を目指す tuins.e-ラーニングの活用については、キャリア・デザイン a の課題として導入し、全 1 年生が e-learning を活用した。（評価：○）

(2) 2022 年度実施予定項目

指針 3(4) 引き続き 2020 年度と同様の方法で実施する。

4. 語学教育・国際交流

4-1. 英語教育

1. 実績と現状

英語での科目：

【週2回行う科目】

Intensive English I・II 1年（前）（後）・選択必修科目を専任教員が担当し、外国語特講（英語）2年（前）・選択科目を非常勤講師（1名）が担当した。

【週1回行う科目】

選択科目・1年（前）英語学（専任教員）、選択科目・1年（後）英語音声学（専任教員）、選択科目・1年（後）Creative Writing（専任教員）、選択科目・1年（前）TOEIC I（専任教員）、選択科目・1年（後）TOEIC II（専任教員）、選択科目・2年（前）TOEIC III（専任教員）、選択科目2年（前）Advanced Reading I（専任教員）、必修科目・2年（後）Academic Writing II（専任教員）、選択科目2年（前）Advanced Reading I（専任教員）、必修科目2年（後）Academic Writing II（専任教員）、必修科目3年（前）多文化共生論（専任教員）、選択科目3年（前）ビジネス英語（専任教員）、選択科目3年（前）観光英語 非常勤講師（1名）が担当した。

1. 令和3年度の英語 I または英語 II 1年（前・後）・必修科目は7クラスで行い、専任教員4名と非常勤講師3名が担当した。英語で行うゼミ（教養演習II英語専攻クラス）を専任教員が担当した。
2. 英語 I・英語 IIに関しては、プレースメントテストの点数に従ってクラス分けをした。原則として前期と後期クラスは変わらないようにした。その結果として、学生が自分の英語力のレベルにふさわしい授業内容・英語練習などを受けた。
3. 学生が英語を母語としている人と触れ合い、英語のみで自由に様々なトピックについて話ができるグローバル・カフェ（Global Café）を開催した。Caféの担当者である専任教員がコーディネーターとしてGlobal Caféの利用時間を設定し、担当者を管理し、英語に興味を持っている学生を中心に、調理実習イベント、English Movieの鑑賞イベントなどを行った。Global Caféの2021年度の訪問回数は約600回であった。
4. English at TUINS 12月18日、富山駅間のCiCビルで「English at TUINS Winter Event」を開催した。県内の高校1・2年生10人が参加した。内容は、専任教員が担当するIntensive English IIの学生が英語のゲームや活動を自ら考え、教材などを作成し、授業中に2回ほど練習して改善した。イベントの当日は、4人の学生が3つのゲームを専任教員と一緒に実施した。内容は、英語のジェスチャーゲーム、英日語のことわざゲーム、英日語それぞれ英語のクイズや講義を担当した。参加者は活動を大いに楽しんでいた。

2. 今後の課題

英語プレースメントテストの内容を改善し、英語プレースメントテストの内容を改善し、英語 I・英語 II のより細かいクラス分けをする。イングリッシュ・カフェ（English Café）の活動範囲を拡大して、利用者の人数を増やす。

4-2. 中国語教育

【中国語 I・II】

(1) 履修者数および成績評価結果

項目	人数（人）	試験結果	備考
----	-------	------	----

履修学生数	前期 59 名 後期 59 名		中国語ⅠA・B2 クラス分け 中国語ⅡA・B2 クラス分け
期末試験受験者 (前期)	59 名	59 名合格	(内 7 名が再テストで合格)
期末試験受験者 (後期)	59 名	59 名合格	

(2) 成績評価基準

シラバスに記述した方針（受講態度 20%、課題 30%、期末テスト 50%）で成績評価（素点）を実施。

(3) 授業の成果と問題

- ・前期は、ほとんど対面授業だったが、後期にある期間はオンラインの形式で講義を進め、大多数の受講生の受講態度はよかった。人数が多いにもかかわらず、授業中、指定席だったので、私語もなかった。勉強意欲も例年の学生より高かった。中国語の授業は楽しかったという声があった。教員と学生とのコミュニケーションもよく取れる状態である。授業アンケート分析によると履修者の 80%以上は、中国語授業を受けて満足したという答えがあった。多数の履修者は中国語と中国文化に興味を持つようになったということも分かった。
- ・授業中、言葉の勉強だけではなく、中国文化、事情も取り入れるのを心がけた結果、学生のそれらを理解と認識度も同時に高められた。中国文化の導入があったから、いっそう中国語の勉強に興味を持たせることができたと思う。
- ・授業は発音・声調、朗読、短文のつくり、簡単な会話に重点を置き、一人ひとりにきめ細かな指導を行った。また履修者同士の参加型授業、グループワークもよく取り入れられて、学生に作業時間を与えるのを心がけた。

<問題>

- ・オンライン授業を実施する場合に、運動部に所属していた受講生たちは、合宿所の同じ部屋で受講する形なので、音声効果が良くなかった。部活動をやっている受講生は試合に出たり、遠征に行ったりすることでやむを得ず欠席した回数がやや多かった。

(4) 課題と解決策

- ・オンライン授業の場合、学生の受信環境の改善に大学から力をいれるべきである。
- ・事情によって、個別指導を強化しなければならない。
- ・興味を持ってもらうだけではなくクラス全体の学生の勉強意欲、主体的に学ぶことを引き出すことができるような授業の方法を工夫したい。
- ・中国語検定試験向けの練習指導を強化しなければならないこと。一人でも多くの受験者が現れるように努力したい。

【外国語特講中国語】

(1) 履修者数および成績評価結果

項目	人数（人）	試験結果	備考
履修学生数	前期 9 名 後期 9 名		
期末試験受験者数（前期）	9 名	9 名合格	
期末試験受験者数（後期）	9 名	9 名合格	

(2) 成績評価基準

シラバスに記述した方針（課題 30%、期末テスト 50%、授業態度 20%）で総合的に評価する。

(3) 到達目標

- ①中国語の基礎文法を正しく応用ができる。

②中国人と日常的な会話ができる。

③辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳・翻訳もできるようにと目指すこと。

(4) 授業の成果と問題

- ・ 授業を通して、到達目標の①はクリアできたが、②に関しては、もう少し距離があるようだが、また努力したい。
- ・ 辞書を参考しながら翻訳は少しずつできるようになり、通訳はまだまだの状態である。
- ・ 言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情も触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・ 少人数の授業なので、一人ひとりにきめ細かな指導が行われた。また履修者同士の参加型授業、留学生との交流なども導入した。授業中学生に作業時間を与えるのを心がけた。

<問題>

昨年と同じように教室での勉強ばかりをしたが、今後実践練習、観光地現場での勉強と練習をかねての会話を取り組みに工夫したい。

(5) 課題と解決方策

- ・ 興味を持ってもらうだけではなく、学生が主体的に活躍できる授業の形態になるための工夫をしなければならないと考えている。
- ・ 大学のチューター制度をもっと有効的に活用し、学習者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。
- ・ 観光現場での言語実践、中国語の検定試験を受けようとの促がしにも力を入れたい。

【観光中国語】

(1) 履修者数および成績評価結果

項目	人数 (人)	試験結果	備考
履修学生数	6 名		
期末試験受験者数 (前期)	6 名	6 名合格	
期末試験受験者数 (後期)	6 名	6 名合格	

(2) 成績評価基準

シラバスに記述した方針 (課題 30%、期末テスト 50%、授業態度 20%) で総合的に評価する。

(3) 到達目標

- ①中国語の基礎文法を正しく応用ができる。
- ②中国人と日常的な会話ができる。
- ③辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳もできるようにと目指すこと。

(4) 授業の成果と問題

- ・ 到達目標の①に関しては、ほとんどクリアできたが、②に関しては、達成するまで少し距離があるようだが、また努力が必要である。③に関しては、基礎的なもの、簡単な程度ぐらいいは問題がないけれどもやや難易度の高いものに対しては、無理がある。
- ・ 言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情も触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・ 受講生の中に中国出身者 1 名いるので、授業中日本人学生と一緒に交流したり、会話練習をしたりして、チューターの役割もうまく果たされた。
- ・ 学生が参加型の授業なので、グループワークが良く行われた。

<問題>

今後実践練習、観光地現場での勉強と練習をかねての会話を取り組みたいと思う。

(5) 課題と解決方策

- ・ 興味を持ってもらうだけではなく、学習意欲を高め、目に見える勉強成果がもっとあげられ

るように工夫をしたい。

- ・ 中国人留学生と履修者との交流や会話練習などを授業の一環として更に強化したい。

4－3．韓国語教育

1. 実績・現状

韓国語は平成 24 年度入学生から選択必修科目となり、同時に週 2 回の開講となった。2021 年度「韓国語Ⅰ」（履修登録者 35 名。単位取得者 34 名）は、前年度と比べオンライン（zoom）授業の回数は減少したが、授業方法改善が継続して求められる授業環境だった。ハングル（文字）と発音の習得、初級文法学習方法を再考した。「韓国語Ⅱ」（履修登録者 35 名。単位取得者 34 名）は個別の発音練習に力を入れた。前期学習内容復習後、新たに過去形や仮定形、推量など基礎的文法事項を学習した。

シラバスで「韓国語Ⅰ」の到達目標に掲げた、ハングルの仕組みを覚え、読み書きでき、簡単な自己紹介ができるレベルは受講生の 9 割は到達できたとみている。「韓国語Ⅱ」の到達目標に掲げた基本的な文法事項をマスターし、簡単な会話ができるレベルに到達した学生は前年度に比べ減少したと感じている。

中級以上の韓国語授業が開講されていないので、本格的な韓国語学習は協定校での研修もしくは留学を推奨してきたが、2021 年度もコロナ禍で不可能となった。2018 年度に韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生が 1 名、韓国留学（2019 年 3 月～2019 年 12 月）して以降、韓国留学は中断している。

2. 今後の課題

ほとんどの受講生が初めて韓国語を学習するので、スタートラインは同じなのだが、前期終了時点では、学生ごとに顕著な理解度の差ができてしまう。これを解消すべく、授業方法の工夫を重ねている。平成 26 年度より自宅学習を促すため、毎週 1 回程度復習用の学習プリントを配布、翌週の授業で回収し点検している。2021 年度は履修者数が 35 名となり、プリントのチェックに時間がかかる。この点をどう改善するかが課題である。

2019 年度までは韓国の協定校、聖公会大学、大邱大学及び大邱韓医大学からの交換留学生が韓国Ⅰ、韓国語Ⅱの授業にチューターとして参加していたが、2020 年度はできなくなってしまった。留学生による発音指導、会話練習、最近の韓国若者事情の情報提供など授業進行と理解促進に大きな助けとなっていただけに、大変残念である。アクティブ・ラーニング（グループワーク）の導入を継続的に進めてきたが、これも 2020 年度はコロナ対策のため実施できなかった。

近年、K-POP から韓国語に関心をもつ学生が増えている。授業でも K-POP MV、PV を視聴し、韓国語聞き取りに使用している。熱心に聞き取ろうとする姿勢が見られ、効果的だと感じている。

4－4．ロシア語教育

1. 実績・現状

ロシア語Ⅰ・Ⅱは平成 24 年度入学生から選択必修科目となり、同時に週 2 回の開講となった。ロシア語Ⅰ・Ⅱの授業は初めて学ぶ学生を対象に、やさしく、楽しい授業を展開し、基本的なことを繰り返すことによって、ロシア語の文字、発音、基本的な会話表現、文法を学び、ロシア社会の初歩的な知識も学ぶことができた。シラバスで「ロシア語Ⅰ」の到達目標に掲げた「①基本的なロシア語の文章を音読できる。②ロシア語の基本的な文章の構造を理解でき、基本的な文章を「読み、書き、話し、聞く」ことができる。③挨拶などの実用的な表現を覚え、ロシア語で簡単な挨拶、自己紹介などができる」ことが（期間的に授業を Zoom で行うにもかかわらず）達成できた。ロシア語Ⅱの到達目標「①実践的なロシア語を身につける。②ロシア語の文法の知識を深める。③実用的な表現を覚える。」も達成できた。外国語特講（ロシア語）の授業

は、アニメや動画を使い、学生が基礎知識を得て、挨拶などの実用的な表現を覚えた。ロシア社会の初歩的な知識も学び、ロシア語圏の国の文化についてより深く学ぶことができた。ロシア語Ⅰの履修者はロシア語スピーチコンテストに参加する予定だったが、コロナ禍で2021年に富山県ロシア語スピーチコンテストが中止となった。

2021 年

項目	人数 (人)	備考
ロシア語Ⅰ 前期	5 名	
ロシア語Ⅱ 後期	5 名	
外国語特講（ロシア語）Ⅰ 前期	3 名	
外国語特講（ロシア語）Ⅱ 後期	2 名	
合格者数	15 名	
不合格者数	0 名	

2. 今後の課題

- ・毎年受講生数が多くないので、受講者数を増やす対策を考える。
- ・ロシア語を勉強し続けようとした2年生が少なすぎ、2年生がロシア語を勉強し続けるように対策を考える。

4-5. フランス語教育

実績・現状

- ・平成 28 年度より開講し、令和 3 年度は 6 年目の授業科目である。
- ・受講生 7 名。
- ・学生の授業の出席状況はほぼ皆勤であり、単位が取得できなかった学生もいなかった。
- ・授業では、テキスト以外にシャンソンを聴く、フランス国内各地を紹介した動画の視聴、フランス映画の鑑賞などをして、授業が単調にならないような工夫を図った。

2. 今後の課題

- ・2021 年度はコロナ対策のため、マスク越しの授業となり、学生たちの発音がクリアに聞こえないという難があったが、受講生は授業には積極的に参加していた。
- ・1 年間の授業が終わった後でも、特に発音を難しいと感じている学生が多いので、少人数の特徴を活かして、できるだけ発音の機会を多く設定する。
- ・授業で学習した内容を活用できる場面を多く示してあげること。特に「話す」側面に、より比重をおいた授業を心がける。
- ・毎年受講生数が多くない理由の一つは、他の外国語と時間割の開講日が違うという時間割上の問題が考えられるので、開講日の変更の可否を引き続き検討する。

4-6. 国際交流

1. 海外留学・海外研修参加者

2021 年度は新型コロナウイルスの世界的流行が収束せず、海外留学は年度末の 3 月になってようやく実現した。ほぼ 2 年ぶりの海外派遣となったのは、2020 年度入学の英語国際キャリア専攻 2 年生 5 名（グローバル・スタディーズ）、および 2019 年度入学の環境デザイン専攻 3 年生 1 名の計 6 名。その他の海外留学・研修プログラム、海外インターンシップは全て中止となった（表 10-1、2）。

表 10-1. 学部毎の海外派遣学生数

海外派遣総数	2018		2019		2020		2021	
	98		57		0		6	
各学部	現社	子ども	現社	子ども	現社	子ども	現社	子ども
	80	18	41	16	0	0	6	0
留学	11		8		(10)		6	
	9	2	8	0	(9)	(1)	6	0
インターンシップ	2		3		0		0	
	2	0	2	1	0	0	0	0
研修（教員引率）＊	85		46		0		0	
	69	16	31	15	0	0	0	0

＊異文化研修、国際交流実習、ゼミ研修、グローバルキャンパス。()はオンライン留学

表 10-2. 海外留学派遣国内訳

留学内訳	2020			2021		
	合計	合計	合計	合計	現社	子ども
アメリカ	9	9	9	6	0	0
カナダ	(1)	(1)	(1)	0	0	0
オーストラリア	0	0	0	0	0	0
イギリス	0	0	0	0	0	0
マルタ	0	0	0	0	0	0
フランス	0	0	0	0	0	0
中国	0	0	0	0	0	0
韓国	0	0	0	0	0	0
ウクライナ	0	0	0	0	0	0
留学合計	(10)	(10)	(10)	6	6	0

表 10-3. 海外研修プログラム参加者数

海外研修内訳	2020			2021		
	合計	現社	子ども	合計	現社	子ども
中国（異文化研修）	0	0	0	0	0	0
韓国（〃）	0	0	0	0	0	0
オーストラリア（〃）	0	0	0	0	0	0
カナダ（〃）	0	0	0	0	0	0
マルタ（〃）	0	0	0	0	0	0
タイ/マレーシア（〃）	0	0	0	0	0	0
デンマーク（環境）	0	0	0	0	0	0
シンガポール/豪（経情）	0	0	0	0	0	0
インターンシップ（加・越）	0	0	0	0	0	0
ゼミ研修	0	0	0	0	0	0

研修合計	0	0	0	0	0	0
------	---	---	---	---	---	---

2. 外国人留学生受入数（交換留学生を含む）

2021 年春は海外の協定校から編入 1 名、交換留学生 3 名の計 4 名を受け入れ予定だったが、政府の新型コロナウイルス水際対策で、国外からの新規入国が認められなかったため、新規入国による受け入れ数はゼロとなった（表 10-4、5）。一方で、富山市内の日本語学学校（協定校）から前年に科目履修生として受け入れていた学生（国籍：ベトナム）1 名が編入を果たしたほか、本学への交換留学から編入に転じた学生（国籍：中国）が 1 名出たことは、厳しい環境の中でも、一人一人を大切にする教育が結実したといえよう。

数値で見ると、2021 年度の現社の入学生 113 名に対して、新規入学の留学生（2 名）の割合は 1.7%と、前年並みとなった。ただ、2021 年度末には留学生数はわずか 4 名にまで落ち込んだ。

表 10-4. 2021 年度受入予定者（編入・交換留学）

	学校名	国籍	性別	期間
編入①	鞍山師範学院	中国	男	2年 *秋入学
交換①	哈爾濱理工大学	中国	女	1年
交換②	哈爾濱理工大学	中国	女	1年
交換③	南通大学	中国	女	1年

注：日本政府の新型コロナ水際対策により新規入国が認められず、①のみ R4 年度の入国を待つこととなり、他の 3 名の交換留学希望者は来日・留学を断念した。

表 10-5. 年度別外国人留学生受け入れ数（年度別入学者数）

入学年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
学部 1 年生入学	10	16	11	8	6	9	6	5	0	0
編入学 (2+2)	4	2	2	1	9	9	2	6	0	2
交換留学	171	15	10	9	14	19	22	22	1	0
研究生	0	8	5	0	3	2	1	2	1	0
留学生入学者総数	31	41	28	18	32	39	31	35	2	2

表 10-6. 2021 年度正規入学生出身校

出身校	人数	国籍
信陽師範学院	1	中国
富山国際学院	1	ベトナム
合計	2	

3. 留学生の進路（2021 年 9 月及び 2022 年 3 月卒業）

2021 年度の学部卒業生は 2021 年 9 月卒業が 3 名、2022 年 3 月卒業が 6 名の合計 9 名だった。大学院などへの進学者は 1 名、国内就職が 4 名。このうち、県内就職は 2 名だった。

4. TOEIC 受験者数と結果

TOEIC IP テストは、学内会場での試験実施が新型コロナの感染状況に左右されるリスクがあることから、初めてオンラインで実施することとした。受験者の都合に合わせて受験する時間・場所を選べるため、利便性も大きく向上した。なお、公正な試験のため、AI 監視サービスも利用した。実施期間は、2021 年 8 月 9 日～8 月 15 日と 2022 年 2 月 14 日～2 月 22 日の 2 回。受験者数は 1 回目が 6 名（現社 4 名、子ども 2 名）、2 回目は 3 名（現社のみ）。結果は最高点が 975 点、最低点が 285 点だった。600 点以上 730 点未満は両学部合わせて 2 名、730 点以上は 2 名（現社）だった。

表 10-8. TOEIC IP テスト学部ごとの集計結果

	全学	現社	子ども
試験日	2021/8/9～8/15		
受験人数	6	4	2
～470	2	0	2
470～599	0	1	0
600～729	0	1	0
730 以上	0	1	0
800 以上	0	1	0
平均点	592	728	320
最高得点	975	975	335
最小得点	305	530	305

	全学	現社	子ども
試験日	2022/2/14～2/22		
受験人数	3	3	0
～470	1	1	0
470～599	1	1	0
600～729	1	1	0
730 以上	0	0	0
800 以上	0	0	0
平均点	467	467	0
最高得点	625	625	0
最小得点	285	285	0

5. TOEIC 対応オンライン教材

チエルネット（クラウド型英語学習教材「スーパー英語」）の利用を学生全員に推奨している。5年目で最終年度となった2021年度は、現代社会学部のログイン率は1年生で2桁台が数名、また3年生で3桁に乗った者がいた。その他は両学部ともすべての学年を通じて低調だった。2022年度からは、TOEIC対応オンライン教材「Reallyenglish 総合英語8」を導入するが、前記のような状況を踏まえ、希望者50名のみに提供することとした。また、これとは別に、TOEIC公式過去問題集など、非オンライン（印刷物）の教材を揃え、国際交流センターで学生に利用してもらうこととした。同じ教材を、東黒牧と呉羽の両キャンパスに置く。

6. その他語学関連の取組み

- ① English Café 改め Global Café はコロナ禍で断続的な開催となったが、のべ利用人数は600名だった。
- ② English Camp には2学部から14名が参加した。
- ③ グローバル人材は現代社会学部から4名が取得した。

7. チューター制度の実施

3名の学生（現社2，子ども1）がチューター活動を行った。

8. 国際化への取組み

コロナ禍で、予定していた協定校からの教員受け入れなどの交流事業は実現しなかった。一方、国際化をテーマにした講座を実施した。

大学コンソーシアム富山事業「グローバルチャレンジ入門講座/コロナ時代の多様性を考える」（12月1日、オンライン）を開講し、本学学生ら約20名が参加した。富山大からも1名参加した。

<ゲスト・スピーカー> 藤田彩乃氏（映像翻訳家）

9. 成果と課題

- (1) 新型コロナウイルスの感染が収束せず、海外協定校との学生・教員の交換がほぼ年間を通じて実施できず、年度末の3月によく英語国際キャリア専攻の2年生5名と環境デザイン専攻の1名の計6名を米ミズーリ州立大に派遣することができた。
- (2) 東黒牧キャンパスの Global Café は、新型コロナの感染対策を取りながら、細々とではあるが運営を続け、外国語での会話を体験したい学生たちの貴重なコミュニケーションの場となり、のべ利用回数は600回にのぼった。
- (3) 海外派遣学生数を増やす方法のひとつに、Jassoの海外留学支援制度がある。国際交流センター教員を中心に努力し、2021年度事業として3つのプログラムの奨学金が採択されていたが、コロナ禍で実施されなかった。

表 10-9. 2021 年度 Jasso 海外支援制度採択プログラム

採択プログラム名
カナダで学ぶ子ども達への教育と福祉
韓国での地域課題解決基盤創造キャンプ
KINABALU ECOLING PROJECT 協働支援プログラム

- (4) 留学生の入学者が減少傾向にあるところに、コロナ禍で一層留学生の減少が進んだ。下記は、前年から引き継がれている課題である。

●学部1年生：国内の協定校との関係強化を図る。学生に対する説明会の開催や必要な便宜許与。

●編入（2+2）：重点校との関係強化。交換留学や教員交流の在り方を再検討し、受験者を確保できそうな協定校（ハルピン理工大学、瀋陽師範大学、南通大学）に重点を置いて交流を深化させ、編入学を働きかける。

●オンライン教材の活用： 全学生を対象に導入していたチエルネットの5年間の契約が2021年度で終了したが、この間の活用実績はおおむね低調だった。2022年度からは別の教材の導入が決まっており、利用対象を希望者に絞り込み、有効活用してもらう。

10. アクションプランへの自己点検

（1）2021年度実施内容と評価

- ① 指針 2(1) 英語国際キャリアの2年生5名が、新型コロナウイルス感染症が一定の落ち着きを見せた3月、当初の渡航予定を大幅に延期して、米ミズーリ州立大学へ留学した。期間は4カ月間。ほかに、環境デザイン専攻の学生1名も一緒に同大学に留学した。こちらは期間10か月。（評価：○）
- ② 指針 2(1) 学部の海外体験については、異文化研修、海外インターンシップなど短期のものは、新型コロナウイルス感染症が収束しない状況であり断念したが、3月になって学生6名を米国に長期留学に送り出したことは大きな進展だった。（評価：○）
- ③ 指針 2(2) コロナの感染状況に左右されがちな学内での大規模な TOEIC IP テスト試験実施を避け、2021年度は初めてオンライン TOEIC IP テストを導入し、夏と冬の2回実施した。ただ、2021年度は TOEIC 授業で履修生に対し、IP オンラインテストを授業の一環として受験することを義務付けたことから、そちらに受験者が吸収され、国際交流センター経由の受験者は9名にとどまった。結果は470点以上600点未満が2名、600点以上730点未満が2名、730点以上が2名だった。975点が1名いたことを特記したい。（評価：◎）
- ④ 指針 2(2) Global café（English café）は前年同様、コロナ禍で学内立入禁止になり運営できない時期もあったが、年間では約600人の利用があった。また、両学部対象の English Camp は14名の学生の参加があった。（評価：○）
- ⑤ 指針 2(2) グローバル人材育成プログラムは現社から2名（4年次生）が終了した。（評価：△）
- ⑥ 指針 2(2) 中国人留学生が、日本中国友好協会主催の「日中大学生スピーチ交流会」に応募者230名の中から選ばれ、東京での交流会に参加した。（評価：○）
- ⑦ 指針 2(3) 新型コロナの影響により、今年度は海外提携校との交渉は厳しく、新たな協定の締結はない。協定校の数は従来どおり。（評価：○）
- ⑧ 指針 2(3) コロナ禍で出発の時期は半年ほど遅れたものの、3月から英語国際キャリア専攻の2年生5名と環境デザイン専攻の学生1名が協定校の米ミズーリ州立大に留学した。（評価：◎）
- ⑨ 指針 2(3) 米国の協定校から2022年度後期に1名交換留学の希望が寄せられており、受け入れに向けて準備を進めている。（評価：—）
- ⑩ 指針 2(4) 前年同様、コロナ禍で新たな留学生受け入れは実現しなかったが、2021年度春に受け入れ予定だった中国の学生を、1年後の2022年度春からようやく受け入れられることになった。（評価：—）
- ⑫ 指針 2(4) 9名卒業した留学生のうち、日本語能力検定1級取得者3名、2級取得者6名で、目標の50%以上の取得とはならなかった。（評価：○）

（2）2022年度実施予定項目

- ① 指針 2(1) 「グローバルスタディーズ」6名、「インターナショナルプログラムズ」数名を派遣見込み。
- ② 指針 2(2) オンライン版の TOEIC IP テストを年間で3回実施予定。English Camp は前年同様、宿泊を伴わない形式で実施予定。Global Café（English Café）は、留学生の受け

入力が少しずつ拡大することが期待されている折、学内の国際交流の場として一層の利用拡大を目指す。

- ③ 指針 2 (2) 数名程度のグローバル人材育成プログラム履修者を目標に定めたが、海外研修、留学は引き続き慎重に行うものとする。
- ④ 指針 2 (2) 前年度まではスピーチコンテストが開催中止になるケースが多かったが、再開されるものがあれば積極的な参加を促す。
- ⑤ 指針 2 (3) 現存の協定校との関係を活性化することを最優先する。現在の協定校数の目標は再考が必要と思われる。
- ⑥ 指針 2 (3) 2022 年度 4 月から中国の協定校から 1 名受け入れ予定。また、後期には米国の協定校から交換留学生を受け入れる可能性がある。
- ⑦ 指針 2 (3) 「国際交流危機管理マニュアル Risk Management (学生用)」の活用を徹底する。「海外派遣留学緊急重大事故対応マニュアル」をアップデートする。
- ⑧ 指針 2 (4) 4 年生の N 1 取得 100%を目指す。

5. 専門教育

5－1. 観光専攻

1. 実績・現状

(1) 観光専攻の専攻科目（講義）

2020 年度の観光専攻の 1～4 年対象の講義科目（観光専攻専攻科目）は、28 科目開講され、専任教員 5 名と非常勤講師 3 名で担当した。

専攻科目の専任教員担当科目では、授業手法として AL 技法を活用したグループワーク等を使用しながら双方向の授業を行った。授業アンケート等でも、総合評価に関する項目では、4 点以上（5 点満点）で評価は高い。

(2) 観光実習

1) 概要

<目的>

『ポストコロナにおける新たな観光形態』をテーマに、具体的な地域をフィールドにおいて仲間と協力し、①地域および地域の観光事業の現状を調査しまとめ、②今後の観光まちづくりのあり方を考えることを目的に観光実習を実施した。2021 年度は、富山市内 2 か所、上市町、富山市八尾町の 4 か所でフィールドワークを行った。

<到達目標>

到達目標は次の 2 点であった。

- ①地域の観光や観光事業の現状や問題点を的確に把握することができる。
- ②現状や問題点を踏まえて、今後の観光や観光事業の方向性を考えることができる。

<実習内容>

上記目的を達成するために次のことを実施した。

- ①実習の目的等の説明
- ②各調査地の情報収集ならびに視察
- ③アンケート調査の実施およびデータの分析
- ④報告書の作成
- ⑤最終報告会

<成果>

コロナ感染防止策を講じながら 2021 年度の観光実習は、通常どおり対面での授業や調査を行った。Zoom 授業で行った 2020 年度の観光実習と比較して、教育効果は上がったと思われる。また、各グループは作成した報告書をそれぞれの調査地関係者に持って行き意見交換も行った。

(3) 専門演習Ⅰ、Ⅱ

専門演習Ⅰは 5 名の教員、専門演習Ⅱは 4 名の教員で担当した。

4 年次 37 名は卒業論文を書き上げ、2022 年 2 月に卒業論文発表会を行った。

2021 年度の卒業研究のタイトルは以下のとおりである。

2021 年度観光専攻卒業研究タイトル

1	日本における観光教育の在り方について
2	コンテンツツーリズムに関する考察～地域振興の可能性～
3	富山県におけるアートツーリズムの在り方について
4	若者の農泊に対する意識の研究
5	里山における日本人と中国人の保全意識の比較および地域観光への期待
6	日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地、船主集落～」が富山市の観光にどうかせるか
7	日本に住むベトナム人による富山観光のイメージについて
8	観光におけるプロモーション動画について
9	富山市中心地の近代・現代建築物と観光
10	アニメツーリズムにおける課題と解決 ～南砺市を例として～
11	祭事の存続と今後の可能性 ―八尾と城端の曳山祭を中心として―
12	ベトナム観光および観光地に関するベトナム人と日本人とのイメージギャップ
13	新型コロナウイルス収束後の宿泊スタイル―宿泊客と宿泊業者双方の視点からの考察―
14	立山連峰における山岳遭難対策 ―救助者・山小屋との連携を中心として―
15	富山県上市町におけるフォトロゲイニングの開催とその地域的意義
16	金沢におけるオーバーツーリズムの実態とコロナ後に向けた課題
17	SNSを利用した観光PRの効果と課題―宮崎県を中心として―
18	高度経済成長期以降における社会の変化と宮崎県観光の変遷
19	VRによる観光誘客の可能性について ―VR旅行の活用事例をもとに―
20	観光資源としての着物について ―加賀友禅をもとに―
21	コロナウイルス感染の拡大による中国観光業の現状と観光客の動向について
22	糸魚川市の観光の現状と課題 ―市の政策やまちづくりの観点から解決策の提案―
23	ヘルスツーリズムの現状と観光商品としての展望 ―ウェルネスツーリズムの視点を踏まえて―
24	「ますのすし」が富山の観光に与える影響 ―産業観光の観点から―
25	富山市の「ガラス」による観光の役割についての考察
26	観光資源としての神社の存在価値のあり方についての考察 ―富山と京都の神社を事例にして―
27	観光資源の保全とバリアフリー環境整備の課題―富山市郷土博物館と国宝瑞龍寺における実態調査を通じて―
28	SNSを介した若者の観光行動に関する考察 ―富山県における実態調査を通じて―
29	ガラス工芸による観光誘致の可能性 ―富山市のガラス関連施設への調査から―
30	コロナ禍のアニメツーリズム ―VRとZoomの活用―
31	オーバーツーリズムの現状と課題 ―京都市での取り組みについて―
32	富山県の観光列車における今後の可能性と展望
33	マイクロツーリズムにおけるコロナ禍での観光事業の可能性の考察
34	観光振興における体験型観光の持続性に関する考察 ―富山県の農業・収穫体験を対象にして―
35	視覚障がい者の観光に関する考察 ―富山県を対象として―
36	観光地における利用者のゴミ問題の課題と解決策について―富岩運河環水公園の調査を通じて―
37	金沢市における「LGBTツーリズム」定着のための方策と社会的意義

2. 今後の課題

(1) 観光専攻の専攻科目

観光専攻の専攻科目の授業アンケート結果は、比較的高い評価点であるが、講義内容、教育手法に関しては、引き続き専攻内でも検討する必要がある。ビデオ教材が多すぎるとの意見もあるので検討する。

(2) 専門演習、卒業論文指導

レベルの高い卒業論文を書かせるために、3年次からの指導が必要である。特に文献講読により知識を深め、またフィールドワークを行い、4年次の卒業研究につなげることが重要である。卒論指導においてもある程度教員間で最低限の作法（卒論の組み立て、引用箇所の明示等）を共有する必要がある（2021年度の卒論においては大きな問題はなかった）。

また、観光専攻では、2017年度から卒論書くにあたってフィールドワークを行うことを義務化した。教育効果も高いので、この方針は今後も継続する。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2021 年度実施内容と評価

指針 2(1) 各専攻によるグローバル・キャンパスが単位化されたことから、さらに海外体験者増を目指したが、2021年度はコロナ禍によりプログラム自体を取りやめた。

（評価：△）

(2) 2022 年度実施予定項目

指針 2(1) 海外に渡航することができないため、代替する方法としてオンラインでの交流の可能性を探る。また、2023年度に向けて観光実習Ⅲ（旧グローバル・キャンパス）のプログラム設計を開始する。

5-2. 環境デザイン専攻

1. 実績・現状

(1) SDGs に関する取り組み

A) SDGs 推進委員会の設立と活動方針の策定、並びに活動実施

① 学内 SDGs 委員会の立ち上げと方針策定

■個別の連絡は行っており、それぞれに活動はするものの委員会立ち上げには至らなかった。主な理由は担当者それぞれの業務多忙により SDGs 業務の優先度を上げることができなかったことによると考えられる。

② 研究室ごとによる SDGs17 ゴールの掲示

■シラバスには SDGs17 ゴール番号の掲示を推進したが、研究室ごとの番号掲示には至らなかった。

B) 学生と連携した学内における SDGs 活動の推進

① 学生有志による SDGs サークルが立ち上がり活動を開始した。メンバーは4年生から2年生（2021年度）までの8名で、以下の活動を実施している。

■蜷川幼稚園の野外活動に協力し学内での柿取りと干し柿づくり活動

■キャンパスの森の調査と、森の中でのシイタケ栽培の試行

■富山市が主催する県内高校・大学・企業の有志による「SDGs リーダーズミーティング」イベントに参加し、発表と意見交換を実施

■南砺市と協力した小学生向け SDGs パンフレットの作成コンペ応募

■東黒牧キャンパス内の美化として花壇の整備活動

■ゴミ箱設置に向けた現状調査と設置個所の検討

※但し、本活動はゴミ箱の設置には至らなかった。原因は活動の学生依存度が高すぎたことによると考えられる。教員と学生とが連帯感をもって活動する事が重要かと考えている。

②松山教授指導による大学発 SDGs 普及促進教材開発の実施。具体的には SDGs すごろくの開発と、既に開発した SDGs カルタによる小学校での活動実践。

③働き甲斐のある効率的な職場環境構築と、余裕のある有給休暇利用に向けた IT を活用した効率的作業基盤整備を情教研センターと協力して進めた。

■授業の効率化推進としての MS-Teams の活用促進 (SD/FD 研修会による講習等の実施)

C) 付属高校と連携した活動の推進

国際大の取りまとめによって、環境教育学会中部支部大会 (2021 年 12 月) において、付属高校ユネスコ部による学会報告を実施した。本学学生との連携活動には至っていない。

D) 自治体・行政と連動・連携した事業実施

① 富山市環境政策課との連携

■富山市開催の SDGs イベント「富山市 SDGs 学生リーダーズミーティング 2022」に本学から SDGs サークルが参加し、活動報告と意見交換を実施した (再掲)

② 南砺市エコビレッジ推進課との連携

■現代社会学部 1 年次生の実習授業「地域づくり実習」の活動フィールドとして南砺市の協力を得ながら、南砺市 SDGs 活動を推進する地域事業所を拠点とした現地訪問と事業提案、発表コンペを実施した。

E) 県内地域、および団体と協力した活動推進

県内で SDGs 活動を推進する団体 (PEC とやま) との連携

■PEC とやまの理事会等に出席し団体の事業内容策定、事業実施への協力などを行った。

■JICA からの委託事業 (発展途上国への再生可能エネルギー利用講習会) の採択を得て、2022 年度にオンライン講習会 (10 回程度の連続講座) 実施するはこびとなった。

(2) 地域の人々との協働作業

それぞれの研究室の特性に応じて、地域の人々との様々な共同作業を行ってきた。その成果もあり、(5) 専門演習Ⅱの中でも示しているように地域の関連した卒業研究の割合が多くなっている。2021 年度に行われた、地域と人々との協働作業の一部を次頁表に示す。

2021 年度の地域の人々との協働作業一部

年月	活動名称	活動種別	協働先	活動内容	周知状況	画像
2021	南富山シェアハウス フィージビリティスタ ディ	調査提案	南富山まちづく りを考える会	地域活性化グループと共に、南富山 に現存する空家をシェアハウスにす るためのフィージビリティスタディ を行う。駅前の交通量調査を行い、 駅前再開発を市に提案		
2021	富山の住宅メーカーの商 品開発の系譜	研究	(株) OSCAR.JJ	富山の住宅メーカーが歩んできた商 品開発の変遷を整理し、今後の商品 開発に活かす。		
2021	商品としての住宅ガレージ の開発の提案	研究	(株) OSCAR.JJ	学生が考える住宅のガレージを提案 し、今後の商品開発に活かす。		
2021	県境の地猪谷プロジェク ト	建設PR	個人事業主	富山県の南端に位置し、岐阜県との 県境にある猪谷駅周辺は、限界集落 である。猪谷駅周辺を活性化する取 り組みを学生と地域の人々が協働で 行う。	・北陸中日新聞（2021/8/31） ・北日本新聞（2021/8/31） ・富山新聞（2021/8/31） ・ケーブルテレビ富山（2021/9/4）	

（３）環境デザイン実習

2020 年度に引き続き 2021 年度においても、実習テーマを①森林資源調査法、②海洋環境調査法、③住宅環境調査法、④公害問題調査の 4 点に関して、全員が全ての分野を実施することとした。COVID-19 の影響で、予定していた前期のスケジュールでは実施することができず、オンラインでできることはオンラインで実施しつつ、フィールドワークなどは夏休み期間を利用して実施した。臨海実習はオプションコースの位置づけとして、金沢大学臨海実験施設で実施した。以下に概要を示す。

1) テーマごとの調査内容

テーマ 1：水環境調査

富山市内の環境水について、pH、電気電導度、水温、全硬度などを測定することによって水質調査についての基本的な考え方を学ぶとともに、得られたデータをまとめ、考察することについて学んだ。

テーマ 2：身近な森林資源・植物資源調査

近隣の森林においてプロット調査による森林の過密度評価と身近な地域の植生調査を行い森林・植物資源について理解を深める。

テーマ 3：CASBEE を用いた家屋の環境評価

CASBEE の基準にしたがって各自が自宅の環境性能を評価し、グループごとにデータを検討して住環境指標に与える住宅性能の貢献度をみちびく。

テーマ 4：聞き書きを用いた公害問題調査

イタイイタイ病の思いを「聞き書き」という手法で実感し、公害問題を自分ごととして考える。

2) 臨海実習（学生は 6 名参加）

日時：2021 年 7 月 9 日（金）～10 日（土）

実習内容： 磯採集、海の生物の観察と分類、能登に生息する生物についての講義、スケッチ、乗船実習、施設見学などを通して、海の生物の多様性や環境について理解を深めた。

講師： 金沢大学環日本海域環境研究センター 鈴木信雄教授 ほか

(4) 専門演習Ⅰと専門演習Ⅱ（卒業研究）

専門演習Ⅰ、Ⅱともに環境デザイン専攻の教員5名全員で学生を担当した。

(5) 専門演習Ⅱ（卒業研究）の状況（次頁のTable参照）

環境デザイン実習と同様に卒業研究も「地域志向科目」としての性格を強調した内容とした。結果、全32件の卒研テーマ中21件（65.6%）が地域課題解決型の卒業研究となった（昨年度は63.4%）。また中間発表を8月と12月の2回とした。これは卒業研究発表会での指導ではなく、十分に事前に研究指導することを目的として行った。このことにより、卒業研究発表会は、3年生との意見交換の場となり、発表会が活性化された。また、9月卒業生の中間発表や卒業研究発表は、時期をずらして、3月卒業生と同時に行うようにしている。人数の少ない9月卒業生も、多くの聴衆の前での発表になり、よい経験となったと考えている。

- ・第1回中間発表会（2021年8月5日（木）13:00～17:00実施）
- ・第2回中間発表会（2021年12月3日（金）13:00～17:00実施）
- ・卒論発表会（2022年2月2日（水）9:30～15:00実施）

(6) その他

1) ゼミ教員による学生指導

エコ検定合格をめざし、本学教授を中心に受験講座を実施した。直近の状況を下記に示す。年度を追うごとに合格率も上昇しているが、一部の運動部学生の合格率が著しく低く、検定試験に向けての勉強習慣の定着を図る工夫が必要である。

2021年度 受験者数：35名、合格者数：22名、合格率：62.9%

2020年度 受験者数：35名、合格者数：21名、合格率：60.0%

2019年度 受験者数：30名、合格者数：16名、合格率：53.3%

2018年度 受験者数：32名、合格者数：15名、合格率：46.9%

2) グローバル化対応（グローバルキャンパスプログラムへの参加）

デンマーク研修、イギリス建築史研修ともに、COVID-19の影響で実施できなかった。

2. 今後の課題

(1) 現代社会学部の変化

2021年度においては教員構成が久しぶりに大きく変化した。その意味で、専攻内の必修科目の構成なども少しずつ変化している状況である。学部全体が変化していく中において、その変化を見据えながら環境デザイン専攻も変化していかななくてはならない。

(2) SDGs 活動の推進

SDGsのフレームづくりの中心的に専攻内の専門性を活かして、「大学SDGs」の創出を目指し、大学として組織的な活動へとステップアップすることを今後も進めていく。

環境デザイン専攻卒業研究タイトル

NO	タイトル	地域課題
1	南砺市小湊瀬見の石動電力発電所跡を利用した小水力発電ポテンシャル推計に関する研究	○
2	藤ノ木・山室中部地区におけるオンデマンド地域交通形成の可能性	○
3	EV普及がCO2排出削減に及ぼす効果～運輸部門におけるEV化によるCO2削減施策の検討～	
4	EV普及促進に向けての要因に関する研究～EV普及にむけた充電スタンドの適切な配置について～	○
5	南砺市小湊瀬見における小水力発電プランの検討	○
6	未利用剪定枝のバイオマス資源としての活用方法	
7	富山県の稲作農家におけるタマネギ栽培への転向による農業活性化の可能性	○
8	ボート競技における公平性～自然環境の影響を中心に～	
9	漫才のボケとツッコミの年代による変化～類型別調査を中心に～	
10	ボート競技の二酸化炭素の排出量	
11	富山国際大学の植生調査(1)	○
12	富山国際大学の植生調査(2)	○
13	内観による意識変容～SDGsとの関係において～	
14	大阪・富山の食文化～味覚の表現方法と物語性を中心に～	○
15	内観における「素直さ」の研究	
16	負の遺産の継承方法～動画コンテンツに即して～	○
17	住宅企業への新しいライフスタイルの提案～新しいガレージを考える～	○
18	富山県における木くず排出と処理の現況調査	○
19	富山国際大学の第1駐車場の「ポイ捨て」削減	○
20	住宅における魅力ある窓の研究～「第26回北陸の家づくり」設計コンペの分析～	○
21	南砺市空き家再生事例の運営状況報告	○
22	名作椅子に対する現代のイメージ	
23	学生が考えるシェアハウスの提案～南富山地区の活性化～	○
24	県境の地、猪谷における空き家リノベーション	○
25	ベトナムに進出した富山県企業への実態調査	○
26	洗濯排水中の繊維状マイクロプラスチックの排出量	
27	大学野球におけるケガや事故の防止のための安全対策	
28	土壌中の鉛の簡易分析法の検討	
29	大学講義室内における換気指標としての二酸化炭素濃度調査	○
30	東黒牧キャンパス周辺に見られる野生動物の季節ごとの変化	○
31	富山の温泉水中のホウ素化合物濃度	○
32	黒部川扇状地における自噴水の塩水化と季節変動	○
		65.60%

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2021 年度実施内容と評価

指針 2(1) 海外に渡航することができなかったため、環境デザイン専攻で計画したグローバル・キャンパス（デンマーク、ロンドン&グラスゴー）について実施はできなかった。（評価：△）

(2) 2022 年度実施予定項目

2022 年度は、SDGs に関して、SDGs サークルと連携し活動を推進していく。地域での活動は、それぞれの研究室の特性に応じて地域連携を図り、「環境デザイン実習」の成果発表や卒業論文に結び付ける。エコ検定の合格率を向上させるため、不合格者に対する取り扱いを決め込む。また、総合的には現代社会学部の変化（情報化分野推進、国際分野推進）に対応した環境デザイン専攻のあり方を常時模索する。

5-3. 経営情報専攻

1. 実績・現状

(1) 「経営情報概論」(1 年次専攻必修)

本講義は経営分野(経営環境、経営戦略、会計等)、情報分野(データサイエンス・情報システム等)の各論にとどまらず、外部講師を招聘し、実際の経済環境、社会環境の変化と経営情報の関係に関する講義も行っている。今年度は以下の講師を招聘した。

- 富山商工会議所会頭 高木繁雄氏 「日本・北陸経済の将来展望ーグローバル化・少子高齢化・新型コロナ禍の中 どう立ち向かうかー」
- 日本銀行富山事務所長 小川万里絵氏 「日本銀行の役割と最近の金融経済情勢」
- 株式会社インテック テクノロジー&マーケティング本部 先端技術研究所 村崎諒氏 「企業DX/AI 活用入門」

(2) 「経営情報実習」(3 年次専攻必修)

本講義は経営情報に関する専門知識を実践的に身に付けること、課題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力を醸成することを目的としている。経営系、情報系の二つのプログラムを実施し、その成果は1月27日(木)の成果発表会(Zoom によるオンライン開催)で報告された。実習のテーマおよび報告タイトルは以下のとおりである。

[経営系プログラム(履修者46名、8班)]

1. オンラインマーケティング(4班)

プレゼント旅行、Twitter 呼び込み事業、SNS マーケティング、三世代オーダーメイド旅行

2. 立山信仰による地域活性化(4班)

立山信仰体感ツアー、立山信仰周知のための古民家カフェ、小学5年生を対象とした立山登山の事前学習ツアー、みくりが池温泉・雄山神社峰本社参拝ツアー

[情報系プログラム(履修者24名、6班)]

1. ゲーム開発(2班)

Nintendo Switch を使った「ボールあてゲーム」、ゲーム開発環境 Unity および3次元CG制作ソフト Blender を使った「3Dゲーム開発」

2. チャットボット開発(2班)

開発ツールを活用した「接客ロボット」、「AIチャットボット」

3. IoTデバイス開発(2班)

小型マイコン RaspberryPi (ラズベリーパイ) に温湿度・気圧・CO2 濃度・騒音などの各種センサーを取り付けた計測デバイス開発および環境計測の活用

(3) 専門演習

専門演習Ⅰ(学生数70名)、専門演習Ⅱ(学生数44名)ともに、各6名の教員が担当した。2021年度(3月卒業)は40名が卒業論文を提出し学位(社会学士)を取得した。

また、専門演習では下記のようなフィールドワークも実施、支援した。

- ・トヨタカローラ富山と共同商品開発(「ひみり山杉」を使用したオリジナル記念品)
- ・大学コンソーシアム富山 学生による地域フィールドワーク研究助成(2件)
 - 「呉羽梨農業の事業継承に関する研究
～アグリ・ツーリズムの発想を応用した呉羽梨関連商品の開発～」
 - 「富山市教育旅行誘致事業について『富山で感じる日本の歴史と未来像』」
- ・富山県青年議会への参加支援

(4) 卒業研究

研究過程で2回の中間発表を行った後、卒業研究発表会を2022年2月に実施した。卒業研

究のタイトルは以下のとおりである。

卒業論文タイトル(2021年3月卒業、経営情報専攻)

	卒業論文 タイトル
1	中小企業のリーダーとマネージャーの役割の違いにおける考察
2	コロナ禍におけるサブスクリプション市場の現状と普及の要因 —動画配信サービス市場における分析—
3	スマホゲームの課金における現状と今後の展望
4	転売によるコンテンツ存続への影響
5	日本の家庭用ゲームの現状と展望
6	激化するコンビニ戦争
7	CVSにおける新型コロナウイルスの影響と今後 ～消費者ニーズの変化を中心として～
8	ベストセラーの分析 ～メディアミックスしていないのにベストセラーになる共通点とは～
9	コロナ禍における小売業の状況分析
10	日本の倉庫企業の現状と展望～大手3社の経営分析を中心に～
11	フルモデルチェンジ
12	日本におけるeスポーツの現状と展望—法制度に焦点を当て—
13	中学年代の学外クラブの課題と展望 ～富山県内のサッカー指導を事例として～
14	横浜DeNAベイスターズの経営戦略
15	NBAのリーグ経営に関する考察—ワシントンウィザーズとトロントラプターズの比較分析
16	日本におけるe-sportsの普及と展望
17	UXを考慮したオンライン授業時間割ページの提案
18	シュリンクフレージョンが消費者に与える影響
19	POP広告と陳列方法が売上に与える影響の分析 —売店における事例分析—
20	行動経済学による接客 —カーディーラーを事例として—
21	日本のアパレル業界のEC化と実店舗の必要性における検討
22	檸檬堂が人気になった理由
23	スマート農業による省力化の効果と実現可能性に関する研究～raspberry piを用いた実証実験～
24	SNSにおいてフェイクニュースを拡散するユーザの特徴抽出
25	アンサンブル学習による動画評価の要因分析
26	Twitter上で共有されやすいYoutube動画の解析
27	AIチャットボットから見る機械の人間化
28	3Dプリンターのフィラメントごとの最適条件の検討
29	ドローン活用の現状と展望
30	ドローンカメラによる物体・人認識
31	AIを用いた顔認証システムの開発
32	物体認識AIの応用動向調査
33	画像分類による広告の判別について
34	ドローンによる物体追跡
35	射水市の観光政策—県内観光客誘致に向けて—
36	放生津八幡宮祭・曳山祭の過去・現在・未来
37	富山県における道路政策の研究—利用者視点の道路政策の重要性—
38	デジタル化時代突入による富山県の現状 ～デジタル国家エストニアと比べて～
39	魚津市の人口拡大政策に関する研究 ～人口の社会動態に関する政策の重要性～
40	5Gの全国と富山の動向比較

2. 今後の課題

急速な社会の変化の中でも陳腐化しない普遍的なスキルと、Society 5.0 時代の新たなリテラシーへの対応を進める必要がある。既に 2020 年度にカリキュラムの見直しを行っているが、今後も情報系科目の強化や、経営系の科目との連携などについては継続的に検討することが求められる。また、専攻所属学生が増加するなか、きめ細やかな指導や継続するためには、教員間の情報共有の徹底やサポート体制を強化する必要がある。実習においても、開講年度の履修者数をふまえたプログラムの検討が必要となる。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2021 年度実施内容と評価

- ・「指針 2 国際化、情報化に対応し、地域創生に貢献する教育研究や各種事業を展開する。」に関しては、「グローバルスタディーズ」5 名、「インタナショナルプログラムズ」1 名が米ミズーリ州立大に向けて 3 月、出発した。(評価：○)
- ・「指針 2 (6) 情報通信技術 (ICT) や人工知能 (AI) の急速な進展に対応し、情報処理・活用能力を伸ばす教育を強化し、関連分野の研究を推進する。」については、情報関連科目の拡充にともない、情報関連の卒業研究の専門性が向上するなどの成果が見られた。また、「情報スペシャリスト養成プログラム」や「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」など、資格取得にもつながる一体的な学びの体制が整備された。(評価：○)

(2) 2022 年度実施予定項目

- ・指針 2(1)については、引き続き新型コロナウイルス感染症問題等、海外渡航に関する制限が懸念されるところであるが、中国における新しいグローバルキャンパスプログラムを実施可能か検討する。
- ・指針 2(6)については、新たに整備されたプログラムを着実に進めるとともに、学部で開講されているできるだけ多くの授業でツールを使った情報化を促進する。

5-4. 英語国際キャリア専攻

1. 実績・現状

(1) 英語国際キャリア専攻の専攻科目 (講義)

2021 年度は専攻第 1 期生である 4 年生 (2018 年度入学) 7 名、2 期生である 3 年生 9 名、3 期生となる 2 年生 5 名を新たに迎えた。前年は 2 年次での留学を新型コロナの流行で断念し、いわゆるオンライン留学に切り替えざるをえなかったが、2021 年度は新型コロナの感染がやや下火になったタイミングを見計らい、3 月に入って何とか留学を実現した。留学先は 5 名全員、協定校である米ミズーリ州立大学である。

2021 年度開講した専門科目は以下のとおり。専攻科目は専任教員 4 名が担当した。(かっこ内の数字は単位数)

< 1 年生対象 >

専攻必修 Intensive English I (4) Intensive English II (4)

選択科目 Creative Writing (2)

< 2 年生対象 >

専攻必修 Academic Writing I、Academic Writing II、Advanced Reading I、
国際キャリア概論、多文化共生論 (いずれも 2)
グローバルスタディーズ I ~ II (各 4)

選択科目 国際ジャーナル、英語文学*, TOEIC III (いずれも 2)

< 3 年生対象 >

専攻必修 国際キャリア特別講義、Academic Writing II、専門演習 I a、b (いずれも 2)

選択科目 英語文学、Advanced Reading II、ビジネス英語、Presentation and
Debate、TOEIC IV、国際ビジネス、国際交渉 (いずれも 2)、

< 4 年生対象 >

専攻必修 専門演習 II (12)

2021 年度は、新型コロナに終息の見通しが立たない状況を踏まえ、留学する機会を与える意味から、この年度に限り 2 年次必修の長期留学を 3 年次への進級要件からはずすことが決定されて

いた。これにより、新型コロナが一定の落ち着きを見せた年度末の3月、2年生が米国留学に出發し、約5か月間、協定校で学ぶこととなった。

一方、2021年度は初めて、入学当初から当専攻に入るのではなく、他専攻同様1年次の終わりに専攻を決定してもらうこととしたが、学習意欲の非常に高い学生6が当専攻に入ることを希望し、2年に進級した。1期上の専攻生の留学がようやく3月に実現したこともあり、新2年生たちは一層向学心を燃やしている。

（２）専攻科目以外の英語関連科目

英語学、英語音声学、ならびに TOEIC I、II (いずれも2単位)の科目は、英語国際キャリア専攻の学生の大半が履修し、英語能力の向上に役立てた。特記したいのは1年生の英語力の向上で、前期に TOEIC IP テスト(オンライン)で340点だった学生が、後期の同テストでは600点を取り、さらに春休みに自習して TOEIC 公開テストを受験し、810点を取ったことである。ほかにも、310点から610点に伸ばした学生がおり、ここに挙げた二つの例はいずれも2年次に当専攻に入った学生である。こうした例が生まれた背景には、学生たちが互いに励ましあい、切磋琢磨する良い雰囲気が生まれていることがあることも述べておきたい。今後留学で一層力を付けていくことと期待している。

なお、こうした成果が把握できたのは、TOEIC の授業の中で TOEIC IP テストを受験することを義務化したことが大きいと考えており、今後も少なくとも1年生に関しては、TOEIC IP テストの受験を義務化することが望ましいと考える。

（３）専門演習ⅠとⅡ（卒業研究）

専門演習Ⅰは専攻の教員3名、専門演習Ⅱは専攻の教員1名が担当した。

（４）専門演習Ⅱ（卒業研究）の状況

専攻開設以来、初の卒業研究発表となった。内容は英語学習者に関するものから、日本文学の翻訳に関するもの、日本語と英語のユーモアの比較など多岐に渡った。

中間発表を8月と12月の2回実施し、学生が自らの研究の進捗状況に対する意識を高める機会とした。研究発表実施の日程は以下のとおり。

- ・第1回中間発表会（2021年8月5日 15:00～16:00）
- ・第2回中間発表会（2021年12月22日 14:40～15:40）
- ・卒論発表会（2022年2月2日 14:40～15:40）

卒業論文タイトルは以下のとおり。

- ・ Japanese attitudes towards international residents
- ・ Effective English study methods for Japanese speakers: A survey of attitudes, methods, and linguistic obstacles connected to learning English in Japan
- ・ Good translation: comparing literary translation strategies between Japanese and English
- ・ A comparison of English and Japanese humor styles: Identifying why stand-up and manzai comedy makes people laugh
- ・ A comparison of the Japanese and English versions of Breasts and Eggs by Mieko Kawakami

<成果>

専攻として初めて海外留学に出した2018年度入学生で、留学前の TOEIC IP テストのスコアが400点、留学後のスコアが660点だった学生が、4年次の2021年10月に受けた IP テスト(オンライン)では765点、さらに2021年度末には TOEIC 公開テストを受験し、860点を獲得した。コロナ禍で外出する機会が減った分、家で学習に励む時間が増えた面はあるが、「実際に英語を使う環境に身をおいたことがある」という経験が、その後の学習継続を後押しする力にな

っている、とは本人の弁である。その他の成果としては、「(2) 専攻科目以外の英語関連科目」でも触れたが、1年生の英語学習意欲が非常に強かったことを挙げておきたい。1年次配当のTOEIC I、IIは専攻科目ではないが、専攻の教員が指導しており、高得点者の多くが2年次に進級する際、当専攻を選んでいる。

1年生のTOEIC IP テスト（オンライン）のスコア変化の例

学生	TOEIC I 受講開始時	TOEIC II 受講終了時	得点の伸び
A	340	600	+260
B	310	610	+300
C	495	590	+95
D	360	490	+130
E	165	390	+225
F	130	305	+175

2. 今後の課題

2021年度から、専攻の決定を他専攻と同じく1年次の終わりごろとした。専攻の選択に十分な時間を与え、他の専攻を目指す多様な学生と交流する中で、学生たちはむしろ英語を学習する意義についてより深く考え、学ぶ意欲を強めたようである。そうであればなおのこと、入学後すぐの早い時期から学生たちに専攻の魅力を伝えるべく、専攻の教員は学生の知的好奇心を刺激する講義を行うよう努める必要がある。

卒業論文に関しては、地域課題と関連づけた研究が出なかった。今後、地域に目を向けた研究にも取り組んでもらうよう促していきたい。

また、コロナ禍が一定の落ち着きを見せ、中断していた海外留学が再開したことで、当専攻を希望する学生が今後増えることが予想される。社会経験の浅い学生たちの留学に際しては、安心して勉学に集中できるよう万全の構えで海外に送り出すことが重要であり、そのために留学準備に係る体制を今一度洗い直すべきと考える。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2021年度実施内容と評価

- ①指針 2(1) 新型コロナ感染状況が落ち着きを見せた3月、専攻の2年生5名を米協定校である米国のミズーリ州立大学に留学させることができた。期間は8月初旬までの約半年。
(評価：○)
- ②指針 2(2) TOEIC IP テストで専攻志望の1年生の得点は200点台から600点台までかなりばらつきがあったが、互いに切磋琢磨する良い雰囲気があり、この中から年度末にTOEICの公開テストで800点超の高得点を取るものが出た。また、4年生でも公開テストで800点超を取った学生が出た。(評価：◎)

(2) 2022年度実施予定項目

- ①指針 2(1) グローバルスタディーズで6名を海外協定校に派遣予定。前年、専攻の2年生5名全員を1校(米ミズーリ州立大学)に留学させたのに対し、2022年度は留学先が4か国4校にわたる。
- ②指針 2(2) 8月初旬に米国留学から帰国予定の専攻生にTOEIC受験を促すとともに、英語力の一層の向上を目指すよう指導する。

6. 情報教育

1. 実績・現状

(1) 教養科目における情報教育

必修科目として、文書作成ソフト（Word と PowerPoint）を習得することを目的とした「ビジネス情報演習 I」、データ管理・分析に不可欠な表計算ソフト（Excel）を習得することを目的とした「ビジネス情報演習 II」、現代社会を支える基盤となっている情報技術の基礎概念を学ぶ「情報科学概論」を開講している。

Word/PowerPoint/Excel は大学生活・社会人生活において必須の道具となっており、学生もそのことを十分に理解しているため熱意をもって受講している。インターネット・マルチメディア・人工知能（AI）・ブロックチェーンなど最新の情報技術への学生の関心も高い。教員もそれに応える授業を実施しており、授業アンケートの「総合評価」は、4.16～4.38 という高い値を得ている。

(2) 学部共通科目における情報教育

選択科目として、「データサイエンス基礎 I」、「情報統計学 II」（新カリキュラムでは「データサイエンス基礎 II」）、「人工知能とその活用」、「プログラミング基礎」を開講している。

「プログラミング基礎」の受講は 68 人（学部定員の 60.1%）に達し、昨年（55 人、45.8%）を上回っており、学生の関心の高さを示している。「情報統計学 II」の受講者 13 人はやや少ないが、「統計学」という言葉に苦手意識を感じている学生が多いのではないかと推察される。新カリキュラムでは「データサイエンス基礎 II」と名称変更され、社会的な関心の高まりも踏まえて受講人数が増加することが期待される。なお、授業アンケートの「総合評価」は、「情報統計学 II」が 3.73 であるが、それ以外は 4.03～4.33 という高い値を得ている。

(3) 経営情報専攻科目における情報教育

専攻必修科目として「情報システム論」、選択科目として「e マネジメント論」、「情報メディア論」、「情報ネットワーク論」、「情報技術論」、「情報社会と情報倫理」、「データサイエンス実践演習 I」、「データサイエンス実践演習 II」を開講している。

「情報社会と情報倫理」の受講は 72 人（学年在籍数の 62.0%）に達しており、情報化の進展に伴う各種の社会的課題を多くの学生が認識していることを示している。「情報システム論」・「e マネジメント論」・「情報技術論」の 3 科目を受講することで国家資格「IT パスポート」試験の準備ができるため、同資格を取得する学生の数も増えている。各科目の授業アンケートの「総合評価」は、4.13～4.50 となっている。

(4) 「数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」と「情報スペシャリスト養成プログラム」

内閣府・文部科学省・経済産業省の 3 府省が推進する政策に対応した「数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」を 2021 年度から開始した。全学の方針として、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的としている。

また、情報教育をさらに強化することを目的として「情報スペシャリスト養成プログラム」も 2021 年度から開始した。国家資格「IT パスポート」の上位資格である「情報セキュリティマネジメント」と「基本情報技術者」の取得を目指すものである。

(5) 情報シンポジウム

2020 年度に実施した開学 30 周年記念シンポジウムのフォローアップイベントとして、情報シンポジウム「地域におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展に向けて」を 9 月 31 日（土）に実施した。実施日近くまで新型コロナウイルスまん延防止措置がとられていたため、オンラインでの開催とした。会社員・公務員・学生など約 70 名が参加した。東京都・神奈川県・石川県などからも参加者があった。

独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) 社会基盤センター参事兼 DX 推進部長の境真良氏による基調講演「DX についての企業の現状と国の取り組み（推進事業）の紹介」、株式会社 笑農和 代表取締役 下村 豪徳氏による講演「農業 DX と農業の未来～現場目線のテクノロジー活用～」が行われた。最後に、本学の専任教員を交えたパネル討論が実施された。

終了後のアンケートでは「DX 推進のためには、ICT や情報システムに対するこれまでの考え方を転換していく必要性を痛感した」、「農業 DX は、目から鱗だった」などの記述があり、高評価を得ることができた。

（５）次年度に向けた準備

「数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」の上位レベルである「数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム」を次年度から開始するための準備を行った。

2. 今後の課題

＜デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進できる人材の育成＞

現在は、新型コロナウイルスの存在を前提とした社会や経済のあり方を考えざるを得ない状況となっている。オンライン授業やテレワークの取り組みにみられるように、コロナ禍の中で鍵となっているのはデジタル技術である。もともと数年前から AI や IoT 等の新技術による変革が唱えられてきたが、新型コロナウイルスは、デジタル技術による変革（デジタルトランスフォーメーション[DX]）を一層加速させるものと予想される。

こうした中で、本学が行うべきことは、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進できる人材を育成することである。世界の動向を踏まえた上で地域の社会や企業の課題に向き合い、その解決を担う人材を育成する必要がある。

3. アクションプランへの自己点検

（１）2021 年度実施内容と評価

- ・「指針 1(5) 学生による授業評価や教育支援情報システム等を活用して、学習の進捗度を検証しながら学生一人ひとりが成長を実感できる教育改善・充実を行う」については、情報教育研究センターと連携し、外部接続ネットワークを 10Gbps に増強した。また、万一のネットワーク障害の際の迅速な回復を達成するため、短大と大学を合わせた外部接続ネットワーク運用業者の一本化を行った。（評価：○）
- ・「指針 2(6) 情報通信技術 (ICT) や人工知能 (AI) の急速な進展に対応し、情報処理・活用能力を伸ばす教育を推進する」については、上述のとおり「数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」「情報スペシャリスト養成プログラム」を 2021 年度から開始した。（評価：○）
- ・「指針 2(7) ICT を利活用した教育を推進するための学内情報ネットワーク基盤を再整備し、学生サービスの質向上を実現する」については、学園情報教育研究センターと密に連携して教職員のスケジュール共有、施設予約状況の共有を行った。（評価：○）
- ・「指針 3(3) 学生への生活指導や支援体制を整え、充実した学生生活を送ることができるように支援する」については、情報教育研究センターと連携し、外部接続ネットワークを 10Gbps に増強した。また、常駐 SE 2 名が学生のサポートを行い、ICT 活用の底上げをはかった。（評価：◎）
- ・「指針 4(1) 社会や地域のニーズに対応する改革・改善を促進し、地域での存在感を高める活動を強化して、富山国際大学ブランディングを明確にする」については、「情報シンポジウ

ム」を開催し、本学の取り組みをアピールした。（評価：○）

（２）2022 年度実施予定項目

- ・「指針 2 (6) 情報通信技術 (ICT) や人工知能 (AI) の急速な進展に対応し、情報処理・活用能力を伸ばす教育を推進する」については、「数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム」を開始する。
- ・「指針 2 (7) ICT を利活用した教育を推進するための学内情報ネットワーク基盤を再整備し、学生サービスの質向上を実現する」については、内部ネットワークの再増速 (1Gbps→10Gbps) を行う予定である。また、教職員の情報共有システムとして Google Workspace の利用を推進する。

7. 留学生教育

1. 留学生の現状

国籍	人数（2021 年度前期）	国籍	人数（2021 年度後期）	備考
中国	8	中国	5	
ベトナム	4	ベトナム	4	
ネパール	1	ネパール	1	
	合計 13 名		合計 10 名	

学年別留学生

正規生人数	2021（前期）	2021（後期）
1 年生	0	0
2 年生	0	0
3 年生	4（2）	4（2）
4 年生	9（3）	6
合計	13	10

※（ ）は編入 2+2 の学生

奨学金受給状況：

奨学金名	金額（月額）	受給人数	
		前期	後期
富山国際大学奨学金	2 万円 ※1	3	1
	4 万円 ※2	0	0
富山県国際交流奨学金	5 万円 ※3	3	3
	1 万円 ※4	0	0
J a s s o 学習奨励費	4 万 8 千円	1	1
朝日国際教育財団	3 万 5 千円	5	4
朝日国際教育財団・特別奨学生	10 万円	1	1

※1 富山国際大学奨学金（2 万円）は協定校からの入学者のみに支給

※2 “ ” （4 万円）は聖公会大学からの交換留学生のみに支給

※3 富山県国際交流奨学金（5 万円）受給者のうち 1 名は協定校外の学生

※4 富山県国際交流奨学金（1 万円）は協定校外からの 1 年生に優先的に割り当てている。

宿舎別入居状況：

大学が民間アパートを借り上げ、前期 6 室、後期 3 室を留学生に提供している。そのほかに近くのアパート及び富山市内の民間アパートを利用している。

実績と課題

在籍している前期 13 名、後期 10 名の留学生は、海外 3 カ国の協定校と日本国内にある日本語学校から進学してきた学生である。コロナ感染拡大前までの頃は、本学の海外協定校の数が増えることにより、受け入れた留学生数も年々増えていた。けれども新型コロナの感染拡大の状況で、留学生募集事業においては大きなマイナスの影響を受けた。2021 年度は協定校からの 2+2 で編入生 1 名のほかに正規留学生と交換留学生の募集数はゼロという状態に置かれた。

今までは、大学は近くにある民間アパートを棟ごと借り上げて留学生に宿泊の便宜を提供してきたが、2021 年度は新規入学する留学生が 1 名しかいないので、部屋の空きが多くなった。大学の近くに宿舎があれば、生活上の困難があっても、すぐそばに友達がいてお互いに助け合えるから、留学生の大多数は、概ね安心、且つ充実した留学生活を送れている。その点においては、留学生派遣側からも評価を得ている。今後来る留学生にもなるべく大学の近くに借り上げているアパートを提供し続けていく予定である。

ここ数年来、正規留学生の質がよくなり、日本語レベルも高まりつつあるのは、喜ばしいことであった。2021 年度、前期の 9 月に卒業した留学生の 3 名のうちに 1 名が進学、1 名が日本国内で就職、1 名が帰国した。後期の 3 月に卒業した 6 名の留学生はうち 5 名は日本国内で就職、1 名が日本の大学院に進学した。

2021 年度、卒業した留学生 9 名のうち日本語能力検定の 1 級合格者が 3 名、2 級合格者が 6 名だった。

以上から見ると、今後さらなるきめ細かな指導と温かい支援をし続ける必要がある。留学生それぞれの勉学意欲と日本語のレベルには相変わらず大きな差があるのを認識している。これらを踏まえて、今後もしろいろな面からの多様な指導が求められる。

2. 日本語教育の現状

留学生に早く日本での生活に慣れてもらい、大学での専門的な勉強についていけるように、そして将来国際社会に有用な人材になってもらうために、留学生に対する日本語の教育に力を入れてきた。1 年次入学時にプレメントテストの成績によりクラス分けをして日本語の教育を行う計画を立てていた。

しかしコロナ禍の状態で、残念ながら新規入学の留学生数がゼロだったため、2021 年度は全部の計画の実施ができなかった。残っていた留学生だけに日本語の一部分の授業が行われた。

(上級日本語、日本語総合演習)

1) 通常の日本語クラス

留学生を対象にした日本語のクラス

基礎日本語 I・II (週 2 回)

中級日本語 I・II (週 1 回)

実践日本語 I・II (週 2 回)

上級日本語 I・II (週 1 回)

日本語総合演習 I・II (週 1 回)

日本語補習 (前期週 2 回、後期週 4 回、交換教員担当の 2 回)

来日する留学生の日本語のレベルの差が大きく、特に非漢字圏から来た留学生が、全体の日本語の授業についていけるように日本語の補習授業を週に 4 コマ増やす設定になっている。(非常勤の留学生指導相談員が担当する)。

2) 通常の日本語補習の授業以外に、専任教員と支援員により日本語や生活、卒業後の進路などの指導が随時行われた。

実績と課題

新カリキュラムのシステム導入後、卒業までに日本語能力検定試験 1 級を取らないと卒業ができないという意識が留学生の中で少しずつ浸透するようになった。各自が日本語の習熟度によって、自主的に検定試験を受けるようになった。2021 年 12 月までのテスト成績の状況は次のとおり。

日本語能力検定試験各学年の合格者数：

2021（前期）				2021（後期）		
学年	在籍数	N1 人数	N2 人数	在籍数	N1 人数	N2 人数
1 年	0	0	0	0	0	0
2 年	0	0	0	0	0	0
3 年	4	3	1	4	3	1
4 年	9	3	6	6	2	4

卒業するまでに日本語能力検定試験の 1 級に合格するという目標の達成率は、決して高くはないが、例年より少し高くなりつつある状態である。今後いかに留学生の日本語のレベルを高めていくかが課題であり、そのために専任と非常勤の日本語授業の担当者との緊密な連携、情報交換、授業改善に力を入れることが目下の急務である。

3. 留学の生活指導

毎週の火曜日と木曜日の午後 2:30～5:30 の時間帯では、留学生を対象とした支援員による個別指導と支援を行った。2021 年度はコロナ感染拡大という未曾有の状態で、心のバランスを崩した留学生、親元から離れてホームシックになった留学生もいた。その分の指導とアドバイス、見守ることは、大変だったけれども乗り越えられた。

他に日本語の勉強、日本の文化、伝統、生活習慣、日本の礼儀作法、困りごとについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導とアドバイスも随時行われた。

授業のほかになるべく日本の地域社会あるいは日本人との触れ合いができるチャンスを与えようと毎年数多くの有意義な活動とイベント、異文化体験などを実施したが、2021 年度はコロナの関係でやむを得ず自粛をした。

実績と課題

コロナ禍以前は、いろいろな行事、交流活動、ボランティア活動への参加により、留学生たちが日本社会、日本人、日本事情を理解することに大いに役立ったが、2021 年度はコロナ禍で残念だったが、異文化研修も交流活動も実施できなかった。

今後より充実した留学生生活を送ることができるように留学生一人ひとりが日本人と触れ合い、友達を作り、積極的にコミュニケーションが取れるように、また卒業後に日本社会や母国に貢献できる有用な人材になれるように支援を引き続き行っていきたい。

未曾有の新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、留学生たちへの生活指導、危機管理、外国人滞在ビザの許可、滞在が延期できるかどうかなど、様々な問題が発生する可能性がある。このような緊急の時期、非常時の留学生管理は大変重要な課題であり、いざという時に迅速かつ正確な対応ができるよう努めなければならない。

4. アクションプランへの自己点検

（1）2021 年度実施内容と評価

- ①指針 2(4) 新規の入学留学生数 10 名程度を目指したけれども、新型コロナ感染拡大で中国の協定校から 2+2 の編入留学生を 1 名受け入れるにとどまった。これは、新型コロナ対策で政府が新規入国を停止する以前に入国済だった学生。（評価：—）
- ②指針 2(4) 9 名卒業した留学生のうち、日本語能力検定 1 級取得者 3 名、2 級取得者 6 名で、目標の 50%以上の取得とはならなかった。（評価：○）

③指針 2(4) 9名卒業の留学生中、大学院進学者1名、日本国内就職者5名、帰国者3名。

(評価：○)

④指針 2(4) チューター制度の活用による外国人留学生と日本人学生の交流については、新型コロナウイルス感染症の影響により、後期は通学禁止となった時期があり、活動が全部停止した。前期はチューター4人(外国人2人・日本人2人)。オンライン授業のおかげで、子ども育成学部の学生たちも初めて日本語授業にチューターとして参加することができた。(評価：○)

(2) 2022 年度実施予定項目

① 指針 2(4) 正規の留学生募集は、新型コロナ感染拡大の影響で、前期募集は後期に先送りされ、後期には1～2名程度を目指す。

② 指針 2(4) 留学生は全員卒業まで日本語能力検定試験1級の資格を取得できるよう支援策を講じ、全員取得を目指す。

③ 指針 2(4) 卒業後に日本国内での大学院進学や日本企業への就職の促進を図る。6割の達成を目指す。

④ 指針 2(4) 外国人留学生と日本人学生の交流事業に学生のアイデアを募り、それを実現することで、制度に関心を向けてもらい、外国人留学生と日本人学生の交流を促進する。

8. 教育改善・FD活動

1. 実績・現状

(1) ホームページや電子掲示板の活用

- ・ゼミ活動、クラブ・サークル活動、ボランティア活動などにおける学生の活動や取り組みの成果を学内外の人々に広く知らせるため、大学ホームページを活用した。
- ・学内においては、図書館等入口と厚生棟内に設置してある大型液晶モニターを電子掲示板として活用した。大学からの連絡や授業の変更情報などのほか、部活動の対外試合の結果など学生の活躍についても情報を共有できるようにした。また、4号館2階ホールに設置した掲示板を用い、新聞などで報道された学生や教員の活動を紹介した。

(2) 優秀卒業論文の表彰

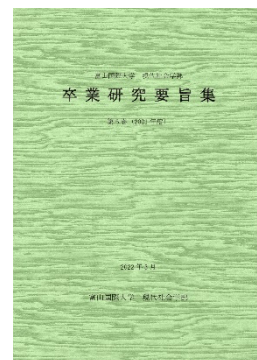
- ・卒業論文の質の向上を図るため、2015年度（平成27年度）より優秀卒業論文を各専攻から2題ずつ選出し、執筆した学生を学位記授与式で表彰している。2021年度（令和3年度）は、英語国際キャリア専攻の優秀卒業論文が1題加わった。優秀卒業論文は、以下のとおりである。また、学位記授与式の会場で優秀卒業論文のパネルを展示した。

2021年度優秀卒業論文

専攻	論文題名
観光	若者の農泊に対する意識の研究
観光	ます寿しが富山の観光に与える影響―産業観光の観点から―
環境デザイン	南砺市小院瀬見の石動電力発電所跡を利用した小水力発電ポテンシャル推計に関する研究
環境デザイン	富山県における木くず排出と処理の現況調査
経営情報	日本の倉庫企業の現状と展望～大手3社の経営分析を中心に～
経営情報	マルチモーダル学習による Youtube 動画の評価推定手法の提案
英語国際キャリア	Effective English study methods for Japanese speakers: A survey of attitudes, methods, and linguistic obstacles connected to learning English in Japan

(3) 卒業論文要旨集の作成と配布

- ・2016年度（平成28年度）より現代社会学部において、全専攻全学生の卒業論文の要旨を掲載する「卒業研究要旨集」を作成している。2021年度は卒業研究要旨集第6巻を作成し、関係者に配布した。
- ・2021年度は119件の卒業研究を掲載した。



(4) 副専攻プログラム

卒業研究要旨集第6巻（2021年度）

2021年度は、副専攻プログラムの修了者として、2名の学生が認定された。内訳は、グローバル人材育成プログラムについて2名であり、2名ともGrade Sの修了者として認定された。

(5) 富山県寄付講義（現代社会学部）

- ・研究や地域活動などの現場で活躍するスペシャリストを講師として招き、富山県寄付講義を実施した。現代社会において注目されており、現代社会学部の学生にとって重要であると考えられるテーマを、学長、学部長、専攻長が中心となって選定した。
- ・2021年度は、以下の5講座を開講した。

2021年度（令和3年度） 現代社会学部 富山県寄付講義

	日時・会場	専攻名・授業名・講義テーマ	講師名
1	11月4日(火) 10:40～12:10 東黒牧C 大講義棟I	観光専攻 「観光概論」 「ローカル鉄道を上手に使うって 地域活性化」	鳥塚 亮 氏 えちごトキめき鉄道株式会社 社長
2	11月8日(月) 10:40～12:10 東黒牧C 大講義棟I	経営情報専攻 「情報科学概論」 「商品・サービスの創出におけるデータサイエンスとAIの活用」	李 軍 氏 高志インテック データサイエンティスト ビジネスソリューション部
3	11月11日(木) 13:00～14:30 東黒牧C 4号館 441室	環境デザイン専攻 「環境デザイン特別講義」 「コロナ後を環境福祉学からどうとらえるか」	炭谷 茂 氏 社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長 富山国際大学 客員教授
4	11月19日(金) 10:40～12:10 東黒牧C 4号館 441室	英語国際キャリア専攻 「国際キャリア概論」 「グローバル化された社会で生き抜く方法」	木浦 寿朗 氏 株式会社 本田技術研究所 技術統括
5	12月1日(水) 10:40～12:10 東黒牧C 大講義棟I	経営情報専攻 「経営情報概論」 「日本・北陸経済の将来展望ーグローバル化・少子高齢化・新型コロナウイルス禍の中どう立ち向かうかー」	高木 繁雄 氏 富山商工会議所 会頭

(6) 授業改善に向けたFD活動

- 1) 授業評価アンケート

- ・2021 年度（令和 3 年度）の授業において、学生に対して実施した授業評価アンケートの結果をもとに、全専任教員が授業内容を振り返り、授業改善の成果などについて考察した。授業評価アンケートの結果については全教員が知見を共有するとともに、抜粋したものを学生全員が閲覧できるようにした。
- ・2016 年度（平成 28 年度）後期から WEB アンケートを実施しており、教員が授業アンケート結果を分析することにより、授業内容のさらなる改善を図っている。

2) FD 研修会開催実績

①現代社会学部第 1 回 FD 研修会 2022 年（令和 4 年）3 月 9 日(水)15:00～16:00

- ・テーマ：「授業・評価の改善とさらなる学生理解にむけて」
- ・対象： 全教員、参加を希望する職員
- ・目的： 今後の授業改善や評価基準の検討、学生理解に役立てることを目指すため、必要なことについて情報を共有するとともに、今後、種々の検討をするための材料を提供した。
- ・講師： 本学専任教員 4 名
- ・内容：
 - 1) 授業評価アンケートの自由記述の活用方法について説明がなされ、今後、どのようにデータを活用していくか、考える機会となった。
 - 2) クラス分けのある科目の授業評価について、教養演習Ⅰ、Ⅱの成績分布のクラスごとの分布を示した。これにより、今後、成績評価の基準を考えていく際の参考とした。また、GPA で表記できることの限界についても知識を共有した。
 - 3) 期末試験をオンラインで実施する際の方法や、注意が必要な点等について紹介された。期末試験だけでなく、通常の授業後に実施する小テストなどの参考にもなる内容であった。
 - 4) 学部の入学者の傾向が以前と比べて変化してきていることから、2022 年度入学者の学力について情報を共有し、授業を実施する際の参考にすることとした。

②全学 FD・SD 研修会 2021 年（令和 3 年）5 月 19 日(水)

- ・テーマ：「自己点検関連の今後を見据えた方向性について」
「Teams の教育における活用について」
- ・講師： 本学専任教員 2 名
- ・対象： 大学の全教員、職員
- ・目的： 学生への学修支援における教育力や支援力を高める目的で実施した。
- ・内容： 来る認証評価受審も見据え、今後の自己点検・評価の取り組みについて情報共有を行った。また、Microsoft 社の Teams を使って教育をする場合の具体的方法や留意点など、他大学の例を交えながら考察した。

③全学 FD・SD 研修会 2021 年（令和 3 年）8 月 4 日(水)13:10～14:50

- ・テーマ：「Google スケジュールの利用と共有方法について」
- ・講師： 本学専任教員
- ・対象： 大学の全教員、職員
- ・目的： 学生への学修支援における教育力や支援力を高める目的で実施した。
- ・内容： 学園情報教育研究センターで検討している Google Workspace を用いた学園内のスケジュール等の共有を推進するため、その使い方や今後の展開などについて説明がなされた。また、今後の組織改編の説明、本学学生等から新型コロナウイルス感染症に罹患した等の連絡があった場合の初期対応について情報を共有した。

④FD・SD 研修会 2021 年（令和 3 年）11 月 8 日(月)10:40～12:10

- ・対 象： 大学の全教員、職員
- ・テーマ：商品・サービスの創出におけるデータサイエンスと AI の活用
- ・目 的：データサイエンスについて理解を深めるため
- ・内 容：情報科学概論の授業 1 回分を SD 研修とし、データサイエンスと AI の活用について学んだ。

⑤FD・SD 研修会 2022 年（令和 4 年）3 月 16 日(水)14：00～15：30

- ・対 象： 大学の全教員、職員
- ・テーマ：労働契約、キャンパス・ハラスメント、個人情報の取り扱い、ディプロマ・ポリシーの可視化について
- ・目 的：労働契約、教育研究現場のハラスメント、個人情報の取扱いについて教職員が理解を深めること、また、ディプロマ・ポリシーの見える化に向けての取組みについて理解を深めることを目的として研修を実施した。
- ・内 容：
 - 1) 労働契約が変更になることに伴い、変更内容の説明がなされた。
 - 2) 教育研究現場におけるハラスメントを防止するため、キャンパス・ハラスメントについて学んだ。
 - 3) 個人情報の取り扱いについて、どのような点に留意する必要があるのか、ということを確認した。
 - 4) ディプロマ・ポリシーを可視化していくにあたり、他大学において実施された例を見ることにより、今後の参考にすることとした。

2. 今後の課題

(1) 教育の充実

- ・2021 年度の入学者より、新カリキュラムの教育が開始した。新カリキュラムにおける主な変更点は、①教養科目、基盤科目、専攻科目の 3 層構造を明確にしたこと、②キャリア科目を充実したこと、③学生の興味関心に応じて外国語科目や情報科目に力を入れて学べるようにしたこと、④学生の興味関心に応じて他専攻科目を柔軟に履修できるようにしたこと、⑤専門演習Ⅱの単位数を 12 単位から 8 単位に変更するかわり、実習の機会を増やしたこと、などである。2022 年度は、新カリキュラムの入学者が専攻科目を学んでいくことになる。これらを通して教育のさらなる充実を図っていく。
- ・2018 年度（平成 30 年度）からスタートした「英語国際キャリア専攻」では、2021 年度には第 1 期の学生が卒業した。今後、英語国際キャリア専攻の専攻科目全体のさらなる充実を図っていく。

(2) GPA の成績評価への活用

- ・2019 年 4 月から学期の GPA（Grade Point Average）が 1.0 未満であった学生に対してフォローを実施しているが、担当教員のみならず、他の教員を含めた総合的なサポートを行える仕組みをさらに充実させていく予定である。
- ・現行制度では意図的に登録単位数を減らすことにより、GPA の数値を上げようと試みる学生がいる。このため、学生の表彰などの際に GPA をもとに選考すると、学ぶ意欲が高いために多くの授業を履修した学生が不利になる場合もある。今後、成績による学生の表彰などには、登録単位数で割らずに Grade Point の合計で評価するなど、意欲のある学生が不利にならない仕組みの検討が必要である。

(3) 卒業研究のレベルアップ

卒業論文に関しては、優秀卒業論文の表彰の実施や各専攻による卒論発表会の活発化により 5～6 年前よりも向上していると思われる。2021 年度は、対面での指導や学外での調査研究が困難だった時期もあった中での卒業研究であった。また、2021 年度より、卒業

研究のルーブリックが導入された。今後、これを卒業研究のレベルアップのために用いたい。

(4) 今後のFD活動

1) FD研修会の検討

- ・2018年度までのFD研修会では、授業をよくするための技術的な研修や授業参観、2019年度は教員個人の研究報告を実施した。2020年度より、オンライン授業などで利活用可能なツールについての研修が増えた。
- ・授業参観については、教員が他の教員の授業をいつでも参観してよいことになっている。2022年度も自主的に教員同士が学びあう仕組みを継続していく。
- ・教育の質の向上や評価の透明性の向上に向け、アンケートの自由記述の検討や、成績評価の分布について、今後も検討していく。
- ・今後も教育の質の向上につながる研修を実施していく。

2) eラーニングの活用

eラーニングについては、入学前教育、学期のオリエンテーション、キャリアデザイン講座などを通して学生に利用方法を紹介してきた。必修授業で紹介することにより、学生の利用率が上がるよう試みた。

3. アクションプランへの自己評価

(1) 2021年度実施内容と評価

指針3(4) 基礎学力の向上を目指すtuins.e-ラーニングの活用については、2020年度よりキャリア・デザイン講座aの課題として導入し、全員満点を取るまで繰り返しeラーニングをすることを課題にしたため、利用率は大幅に上昇している。(評価：○)

(2) 2022年度実施予定項目

指針3(4) tuins.e-ラーニングの活用については、引き続き2021年度と同様の方法で実施する。

9. 学生活動・生活支援

1. 実績・現状

(1) 学生主体の大学づくりに向けた取組み

1) 学生との意見交換会の開催

学友会役員、大学祭実行委員会実行委員長、クラブ会会長および学長、学部長、学務部長、事務部長、総務課長、教務課長、学生課長との懇談会を開催し、学生との意見交換、学生生活・授業・施設に関する要望等の聴取を行った（2021年12月21日実施）。大学構内、学内施設的环境整備に関する要望(2号館の活用、畜産場からの異臭への対応など)や子ども育成学部との交流促進への要望、授業内容やカリキュラムに関する質疑応答があり、適宜改善できるよう検討することとした。

2) 学生主体の大学行事運営とその支援

各種行事において学生が主体となって運営することを促し、教職員がサポート役に回ることによって学生の自主性を試みたが、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じる必要があり、各種行事・イベントが中止された。一方で、感染防止対策に留意しつつも、大学オリジナル日本酒造り、オンラインを通じた大学祭の開催など新たな学生主体の活動も進められた。今後は、コロナ禍における学生主体の活動のあり方を模索していく必要がある。

【新型コロナウイルス感染症防止のため、中止になったイベント】

- ①新入生歓迎会
- ②スポーツ文化交流会
- ③東黒牧キャンパス交通安全運動

【新型コロナウイルス感染症防止に留意しつつ、実施されたイベント】

- ④大学オリジナル日本酒造り(2021年3月～2022年2月)
- ⑤学友会総会(2021年7月27日)
- ⑥オープンキャンパス(2021年10月2日)
- ⑦園児たちと干し柿作りイベント!!(2021年10月22日)
- ⑧大学祭(紅嶺祭・オンラインにて開催)(2021年10月23日)
- ⑨クリスマスイベント(イルミネーションの点灯、クリスマスケーキの配布)
(2021年12月～2022年2月)
- ⑩クラブ会総会(2022年3月11日)

※実施された主なイベントの概要

- ・大学祭は、オンラインにて実施(10:30～15:00)された。大学祭実行委員会が主体的に運営を担い、参加型企画のフォトコンテストや動画内のキーワードを集めて応募するプレゼント企画など、参加率を上げるための様々な工夫が見られた。軽音楽部や吹奏楽部の演奏、読書サークルのオリジナル企画や芸術サークルのイラスト紹介など多彩な内容であった。オンラインでの開催で、学生にとっては苦勞もあったようだが、開催実現を通じて成長につながったようであった。
- ・こども育成学部の学生と協働で実施する行事については、Web会議やメーリングリストなどITを活用することで、スムーズな情報共有を図ることができた。
- ・学生の活動を、広報誌の「コスモス通り」やホームページで積極的に紹介した。
- ・例年、卒業式終了後に行っていた「卒業記念パーティー」については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中止にした。

(2) 学生生活関係アンケート

1) 学生生活アンケート(2021年9月末に実施)

例年どおり、学生生活の実態（通学、クラブ・サークルへの所属状況等）及び学生生活の満足度などを聞いた。Wi-Fiの不具合が無かったことや、4年生対象のオリエンテーションを実施したこともあり、回収率は比較的良好であった(回収率は87%)。

学生生活の満足度について、ほぼ満足であるという学生が42%であったが、非常に満足である学生も増加している。また、後輩に大学を勧めたいかという質問に対しては、どちらでもないという学生が半数いるが、勧めたいと考える学生も増加傾向にあった。自由記述欄では、交通手段の問題や、学食のメニュー数についての記述があった。

2) 卒業時アンケート(2022年2月、各専攻卒業論文発表会終了後に実施)

例年どおり、卒業生を対象に、現代社会学部への印象を聞いた。回答は98人(回収率85.2%)。特筆すべき回答結果として、「入学から卒業までの間で自分は成長した」と感じた学生は98%だった。「大学生活において特に伸びた力(複数回答可)」として、「自己管理能力」「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」だった。「本学で学ぶことを薦めたい」という卒業生は、昨年は一昨年に比べ19%増加したが、今年は66%となり昨年(72%)に比べ6%減少した。

(3) 学生支援チームの取組み

- ・学生生活に困難を抱える学生を支援する体制を強化するために、学部長、学部学務委員長を含む4名から構成される学生支援チームを2017年度に設置。2021年度は、9月30日に第1回ミーティング、3月28日に第2回ミーティングを実施した。
- ・ミーティングでは、配慮を要する学生の状況の共有、学生支援および留学生の指導に関する課題抽出、対応策の検討を行った。配慮を要する学生に関しては、学習指導のみならず、保健センター、キャリア支援センター等との連携の必要性、一貫したサポート体制の構築が必要であること、諸活動の学生については、寮生活等の生活面を含めたメンタル支援など、きめ細やかな指導が必要であることが確認された。

(4) 学生トラブルにかかわる啓発活動

昨今、学生を取り巻くトラブルが多様化しており、アルバイトや就職活動、サークル活動を騙った悪質な商法、投資への誘導にかかわるトラブル、インターネットにかかわるトラブル等が多発している状況から、2018年度より、富山消費者生活センターの協力のもと、啓発講義を実施している。2021年度は、全学年を対象に前期オリエンテーション時に学年ごとに富山県消費生活センターによる講習会を実施した。

(5) 学生活動の広報活動

スポーツ文化交流会、啓発講義などの取組は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中止となった。大学祭については、現代社会学部は昨年度同様にオンライン開催、子ども育成学部は昨年度中止であったが、今年度は富山短期大学と合同でオンラインにより開催した。学外における活動は、地域でのゼミナール活動や観光調査、国際交流活動として、公益財団法人日本中国友好協会主催の「日中大学生スピーチ交流会」での入賞や、第65回富山県青年議会への参加などをホームページ上で紹介した。また、部・サークル活動の実績などについては、積極的にホームページで紹介するとともに、ボートの全日本選手権準優勝及びインカレ優勝の競技成績は、東黒牧キャンパス正面玄関横設置し、地元地域にもPRした。

(6) 交通安全指導

例年、行われている学生主体の交通安全運動(ティッシュ配付による交通安全の周知徹底)、駐車場の利用マナーの向上は、新型コロナの影響を踏まえ中止となった。

(7) クラブ・サークル活動(活動休止中のものを含む)

[部：9 団体] 硬式野球部、サッカー部、女子ハンドボール部(休部中)、ボート部、軽音楽部、吹奏楽部、ボランティア部、陸上部、男子バスケットボール部（活動休止中）

[サークル：12 団体] 環境サークル、芸術サークル、ボードゲームサークル、バスケットボールサークル、語学サークル、レクリエーションサークル、硬式テニスサークル、Tuins 読書サークル「つんどく」、SDGs 推進サークル、水泳サークル(活動休止中)、English Media Club(活動休止中)、アクティブサークル(活動休止中)

(8) 「夢へのかけ橋助成事業」の改善、活性化

ゼミ活動などを通じた「夢への懸け橋事業」への応募について検討した結果、2021 年度は 10 万円コース、20 万円コース、30 万円コースの 3 コースが設定され、予算に応じて申請が行われた。申請は全 7 件となり、現代社会学部からは 3 件の事業が採択された。採択事業は以下のとおりとなり、他分野にわたる取組みがなされた。

[事業名（助成金額、円）] ※現代社会学部は下線部で末尾に(現社)と明記

- 「つながり！発見！地域で子どもたちと新たな学びを！」（100,000）
- 小学校体育授業サポート（192,658）
- Communication House(みんなの家)Your Place,MY Place,Our Place（82,152）
- Teacher's Archives（100,000）(現社)
- TUINS サッカー教室 2021 及び TUINS サッカー大会（90,000）(現社)
- 大学オリジナル・日本酒プロジェクト（100,000）(現社)
- TUINS プログラミング教育研究会（300,000）

2. 今後の課題

(1) 学生主体の大学行事運営を支援

2021 年度の大学祭は、コロナ感染症の拡大を防止する目的で、一日限り、かつオンラインでの開催になった。学友会が中心となり、充実したプログラムが生まれ、学生、教職員からも好評であった。2022 年度は、3 月末時点で新型コロナウイルス感染症の状況次第ではあるものの、従来どおり 10 月 29 日、30 日の 2 日間にわたり対面で実施される予定である。大学側は、学生たちが最大限自主性を発揮できるように、臨機応変に対応する。

(2) キャリア支援の継続

学生のキャリア支援などでは、各種学内部署、委員会の連携強化を図る。

(3) 子ども育成学部との交流

子ども育成学部との交流は、引き続き拡大の方向で方法を検討する。

3. アクションプランへの自己点検

(1) 2021 年度実施内容と評価

2021 年度実施項目としては、学生支援チームの会議を 2 回開催し、情報交換及び課題と対策の意見交換を行った。（評価：○）

(2) 2022 年度実施予定項目

- ・支援チームによる打ち合わせを学期ごとに実施し、配慮の必要な学生の支援につなげる。
- ・支援の必要な学生のニーズに応じて、子ども育成学部・福祉系の教員に相談できる体制を整備する。

10. キャリア支援

1. 実績・現状

(1) キャリア支援講座

3年次必修科目。社会にでるための準備として「キャリアモデル形成」、「自己分析」、「企業研究」、「実践講座」の4つを柱として、通年にわたり授業を展開した。

前期キャリア支援講座aは、インプットをメインに、自己分析や企業研究の方法やノウハウを学習させた。具体的には、外部ツールを利用した自己分析、SPI対策、企業検索サイトの紹介、履歴書・エントリーシート作成などを行なった。

後期キャリア支援講座bは、アウトプットをメインとして、前期授業の実践として、スーツの着こなし方、マナー講座、Tターンカフェ（OB交流会）、4年生の就職体験談、模擬面接、そしてコロナ禍で多くの企業が導入したWEB面接対策など、就職活動を意識した実践的な授業を展開し、2月に地元企業の方々に協力を仰ぎ、「学内企業研究会」を開催し、就職活動に備えた。

(2) キャリア・デザイン講座

1年次必修科目。一昨年度より見直しを図り、前期キャリア・デザイン講座aでは大学4年間でどのように過ごし、大学生活をどのように送り、自分自身を成長させるかを考えさせ、卒業後の自分をイメージできるよう4年間の計画を立てさせた。また、大学入学を機にアルバイトを始める学生も多いことから労働法の講義や、就職活動を意識させたSPI対策なども実施した。

後期キャリア・デザイン講座bでは、地域社会に目を向けるよう新聞の読み方や、文章能力を高めるために作文を書かせるなど、「読み書き」を中心とした授業を展開した。

(3) インターンシップ

2021年度インターンシップ（実働日数5日間以上）の参加者数は38名であった。内17名がオンラインインターンシップだった。下記のとおり学内研修受講状況を含め、全員単位認定された。

学内研修：自己分析・ES作成（4/21）、企業分析（5/19）、マナー研修（5/21、6/11）、事前報告会（7/21）、事後報告会（10/20）、ガイダンス（4/14、6/16、7/7、7/28）の参加状況。欠席した場合は別途課題を課している。

海外インターンシップについては、コロナ禍により実施できなかった。

(4) 「大学コンソーシアム富山・合同企業訪問」

大学コンソーシアム富山主催の本研修については、2021年度は現代社会学部3年生に参加を呼びかけた。45名申込み、40名が参加した。富山大学、富山県立大学等、他大学と合同での研修を行った。

2021年度は、開催時期が県下において新型コロナウイルス感染症の警戒レベル引き上げに加え、まん延防止等重点措置の実施区域に富山市が適用され、直前の開催方法をオンライン開催に変更しての実施となった。

現地への訪問はできなかったが、魅力ある職場の紹介に加え、社員、職員の方々との懇談の場を設けられ、参加学生のキャリア形成や就職に対する意識の向上を図ることができた。

(5) 「令和3年度 富山国際大学 企業・事業所・大学講演会」

同講演会を、以下の内容でオンライン（zoom）開催した。

日時：2021年11月26日（金）15:30～17:10

場所：オンライン開催（zoom）通信機材設置及び大学関係者は東黒牧キャンパス本部棟
2階大会議室

講師：独立行政法人情報処理推進機構(IPA)社会基盤センター
センター長 片岡 晃氏

演題：「デジタル時代の人材育成の現状と展望」

参加企業数： 52 社（講演会出席 59 名）本学の教職員を併せると、55 社（＋大学職員＋現代社会学部＋子ども育成学部）、出席者 83 名

（6）模擬面接実習の実施

就職の個人面談に向けた実習を下記の 2 回に分けて実施した。

① 2021 年 12 月 17 日～24 日

② 2022 年 1 月 11 日～21 日

（7）学内企業研究会

企業の採用担当者を学内に招いて開催している企業研究会だが、本年度はコロナ禍での開催ということで、はじめてオンラインで実施した。

日時：2022 年 2 月 14 日、2 月 15 日

場所：オンライン開催（zoom）通信機材設置及び大学関係者は東黒牧キャンパス図書館
棟キャリア支援センター及び教員研究室等

参加企業数：2 月 14 日 52 社、2 月 15 日 53 社

参加学生数：2 月 14 日 131 名、2 月 15 日 130 名

（8）就職状況

2021 年度は就職希望者 108 名に対して内定率は 100%となった（2022 年 4 月 20 日現在）。就職実績ならびに内定企業については次表のとおりである。本学から就職実績のなかった情報通信業やサービス業にも内定している。進学については、富山大学大学院経済学研究科に 1 名合格した。

2021 年度富山国際大学就職実績（2022 年 4 月 18 日現在）（単位：人）

2021 (令和3) 年度 富山国際大学 就職内定状況										2022年4月18日現在
										単位:人
学部	性別	学生数	休学者	就職希望者	内定者	内定率	未内定者	進学・留学希望者	内進学・留学決定者	進学も就職もしない
現代社会	男	80	0	72	72	100.0%	0	3	3	5
	女	40	0	36	36	100.0%	0	0	0	4
	計	120	0	108	108	100.0%	0	3	3	9
子ども育成	男	20	0	17	17	100.0%	0	0	3	0
	女	77	1	71	71	100.0%	0	0	5	0
	計	97	1	88	88	100.0%	0	0	8	0
合 計	男	100	0	89	89	100.0%	0	3	6	5
	女	117	1	107	107	100.0%	0	0	5	4
	合計	217	1	196	196	100.0%	0	3	11	9

(現代社会学部の学生数には、前期卒業予定の男子学生3名、女子学生2名含む)

内定企業リスト

【現代社会学部】

D 建設業		カシイ、正栄産業、オリバー、ドアメンテナンス、森エンジニアリング、増山電業、道路技術サービス、建新、i ビジネスプロセスサービス、富南電設、Y's GENTLY
E 製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	テイカ製菓、日東メディック、三和製玉
	繊維工業・衣服・その他繊維製品	創和テキスタイル、トヨタ紡織
	印刷・同関連業	朝日印刷、富山スガキ
	化学工業、石油・石炭製品	
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品	藤堂工業、ユニゾーン、富山技研、ビニフレーム工業、丸栄製作所、ファインテック、三精工業、広浜、ハリタ金属
	はん用・生産用・業務用機械器具	タカノギケン
	輸送用機械器具	今治造船
	その他(木材・木製品・パルプ・紙・紙加工品等)	ウッドリンク
F 電気・ガス・熱供給・水道業		日本海ガス、サカキ産業
G 情報通信業		インテック、高志インテック、富士ソフト、北銀ソフトウェア、日本ソフテック、アスプロコミュニケーションズ、ビヨンド、A&Iコンサルティング、キューブシステム、MINAMI
H 運輸業、郵便業		あいの風とやま鉄道、スリー・ティ
I 卸売業、小売業	卸売業	セントラルメディカル、レインボー貿易、大阪電機商事、広野
	小売業	クスリのアオキ、スギ薬局、トヨタカラー富山、スズキ自販富山、ネットヨク富山、コスモス薬局、文苑堂、ダイレックス、アルビス、米三、小杉スポーツ、中部薬品、JAライフ富山、ダイハツ富山、石川BMW、宮崎トヨタグループ、富山県生協、ネクスステージ、シャトレーゼ
J 金融業、保険業	金融業	富山信用金庫
	保険業	
L 学術研究、専門・技術サービス業		株式会社ジェック経営コンサルタント
M 宿泊業、飲食サービス業		三楽園グループ、アトナバレスホテル
N 生活関連サービス業、娯楽業		コバン
O 教育、学習支援業	その他の教育、学習支援	トライプラス富山
Q 複合サービス事業		高岡市農協、富山県総合警備保障、ホクタテ、プレスステージ・インターナショナル
R サービス業 (他に分類されないもの)	その他	扶創国際研修協同組合、ウォーライト
S 公務	国家公務	
	地方公務	富山県警察

【子ども教育学部】

D 建設業		
E 製造業	化学工業、石油・石炭製品	
H 運輸業、郵便業		
I 卸売業、小売業	小売業	クスリのアオキ
J 金融業、保険業	金融業	
O 教育、学習支援業	学校教育	富山県小学校教員(36)、新潟県小学校教員、富山県小学校臨任講師(3)
	その他の教育、学習支援	(社) 婦中もなみ保育園、ジェイエイ氷見みどり会、(社) 魚津保育会、おおひろたこども園、(社) わかくさ福祉会、射水市(保育士)、上市町(保育士)、(社) 西田地方保育園(3)、(社) にながわ保育園、(社) 吉島保育園、出町青葉幼稚園、いちい保育園、南部保育園、能町保育園、(社) 浦山学園福祉会、なでしこ保育園、(社) かづみ野堀岡保育園、白藤幼稚園、砺波市(保育士)、富山市(保育士)(3)、生活クラブ風の村、アノカ幼稚園、藤ノ木こども園
		(社) 富山城南会もなみ子どもクラブ
P 医療、福祉	社会保険・社会福祉・介護事業	富山県庁(社会福祉士)、神奈川県庁(社会福祉士)、(社) 手をつなぐともみ野、(社) 舟見寿楽苑、(社) 射水福祉会いみず苑(3) 富山県立中央病院(社会福祉士)、SOMPOケア(株) 富山市(社会福祉士)、東京都社会福祉事業団、(社) 富山城南会
Q 複合サービス事業		アルコット、富山県生活協同組合
R サービス業 (他に分類されないもの)	その他	社会労務士法人LaLaコンサルタント
S 公務	地方公務	射水市、富山県警、南砺市、国立立山青少年自然の家(臨任)

進 学 先	富山大学大学院経済学研究科、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、上越教育大学大学院学校教育研究科(5)、富山大学大学院教育実践研究科
-------	---

(9) 情報発信

就職支援は保護者や受験生など外部の情報利用者からの関心も高く、出口保障は進学する際に大学を選択する要素の1つでもある。そこで、就職支援をはじめとする大学におけるキャリア支援は大学のPR材料でもある。これまでは、保護者会、学内イベント等で直接保護者や企業担当者、及び大学関係者に情報を発信していたが、コロナ禍で直接会う機会が激減した。そのため、大学ホームページ改訂を機に大学ホームページへの掲載も活発化させ、様々な取組をホームページ上で配信した。また、今年度一旦廃止した進路状況冊子は需要が多いため、次年度から再度作成し、進路実績を大学の取組と同様に学外に発信していきたい。

2. 今後の課題

今後の課題として、以下の点が挙げられる。

- ・就職希望者のうち、精神的な問題を抱える学生、コミュニケーション力に問題のある学生の就職支援のあり方については、本人への指導や支援のみならず、保護者や、必要な場合には専門家も含めた形で進める体制を整える努力をしていくことが、引き続き求められる。
- ・企業研究指導については、なおも十分とは言えない。学内企業研究会におけるアンケートにおいても、本学学生の企業研究や自己分析に関する評価が高いとは言えず、また今年度は例年高い評価をいただいているマナー面でも指摘を受けた。
- ・学内企業研究会を2月に対面で開催したことは、企業の採用活動の動きを勘案すれば妥当だった。
- ・2018年度まで教養演習で実施していた1・2年生向けのSPI対策講座を2020年度以降、1年次のキャリア・デザイン講座aで実施したことは、1年生からe-Learningを積極的に活用させるためであった。十分に活用されているかなど今後、注視する必要がある。
- ・2019年度は3月以降、新型コロナ問題の影響でほとんどの会社説明会が中止になるなど、就職活動をする学生はこれまでに無い対応を迫られ、特に、観光専攻の学生は、志望先の求人が激減し、志望する進路の変更を余儀なくされた。
また、WEBを利用した説明会や面接等の選考活動が増えてきている。そのため3年生はWEB選考対応策として模擬面接をWEBで行い対策した。今後、継続的な支援を続けていくことが求められる。
- ・新型コロナ問題の影響でWEBを利用した1dayインターシップや会社説明会、面接等の増加は、移動を伴わないため、学生たちも気軽に参加するようになってきている。WEBによる就職相談を今後積極的に進めていく必要がある。

3. アクションプランへの自己点検

(1) 2021 年度実施内容と評価

指針3(5) OBとの交流については、後期に学内で富山県の協力の下に「Tターンカフェ」を実施して就職活動を前にした3年生と卒業生との交流の機会を持った。また、2月に開催した学内企業研究会には人事担当者として本学卒業生の参加が複数企業であった。また特別に本学卒業生を同行して参加し、後輩にあたる在学生に自社紹介や質疑応答にあたる企業も何社かみられた。(評価:○)

(2) 2022 年度 実施予定項目

- ・企業訪問について(学生の企業研究)

就職活動支援のため例年実施している企業訪問については、今年度も新型コロナ感染拡大により、個別での企業訪問が困難なため、大学コンソーシアム富山が主催する合同企業訪問に参加を呼び掛ける。ただし、参加の際には、新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりした上で参加するよう指導する。

- ・OBとの交流について

前期に卒業生をキャリア支援講座aに講師として招き、業務内容や企業紹介をしてもらい、3年生の企業研究や職場訪問の機会を設ける。後期には、今年度も「Tターンカフェ」を実

施して3年生と卒業生との交流の機会を設ける。また、2月に開催予定の学内企業研究会参加予定の企業に可能であれば卒業生を同行していただくよう依頼する。

- ・キャリア育成講座

これまで現代社会学部2年次選択科目である「地域企業講座」の授業が、2022年度より必修科目「キャリア育成講座」へと引き継がれることとなる。そのため、早期の企業研究に繋がることが期待される。

1 1. 地域交流・地域貢献

1. 実績と現状

(1) 南砺市と富山国際大学及び富山短期大学の包括連携に関する連携協議会

第1回連携協議会

日時：R3(2021)年度第1回 5月14日(金) 9:30～10:30

内容：南砺市より、事業の提案、2件有り。

- ・転入者むけノベルティ(クリアファイル表面)デザインについて
- ・SDGs リーフレット(小中学生向け)の作成について→子ども育成学部生へ

(2) 富山国際大学 地域交流センター会議

第1回地域交流センター会議

日時：R3(2021)年4月19日(月) 14:45～15:30

内容：

- ・今年度開講予定講座：昨年度実施したエクステンション・カレッジ2講座(中国語、英語語学講座)について、今年度も開講を検討する。特別講演会については、昨年度までの内容を参考にしながら、開催の可否について意見交換。
- ・大学コンソーシアム富山・地域貢献部会：「2021年度学生による地域フィールドワーク研究助成事業」について2件採択、4件提出あり
- ・自治体との連携：南砺市との連絡協議会、黒部市観光商工課・黒部商工会議所との連絡協議会

第2回地域交流センター会議

日時：R3(2021)年5月17日(月) 14:50～15:30

内容：

- ・南砺市との連携協議会：南砺市提案事業については、いずれも学生がアイデア提供のみで終わらないよう、受ける内容における学生の負担も考慮し、南砺市と検討しながら進める必要があることを確認した。11/3 なんと学園祭について、コロナ禍の様子を見ながら開催を予定。
- ・今年度開講講座：エクステンション・カレッジの語学講座2講座を開講予定、今後の他の講座関連については、様子を見ながら進める。
- ・大学コンソーシアム富山・地域貢献部会：令和3年度第1回地域貢献部会 5月下旬～6月上旬 Zoom によるオンライン会議を開催予定。

第3回地域交流センター会議

日時：R3(2021)年6月14日(月) 14:50～15:30

内容：

- ・大学連携講演(大学コンソーシアム富山・地域貢献部会事業)：令和3年9月下旬から10月初旬開催予定の「大学連携講演」(会場：ウィングウィング高岡)について、子ども育成学部教員を講師として推薦。
- ・自治体との連携：自治体との連携について：南砺市との連携協議会での本学学生への提案事業2件について、本学での検討状況等の確認があった。学生へは、幅広く情報伝達の必要があることが確認され、地域交流センターから全学生へ一斉メール配信にて周知することとなった。

第4回地域交流センター会議

日 時：R3(2021)年 7 月 12 日（月）14:50～15:35

内 容：

- ・大学連携講演（大学コンソーシアム富山・地域貢献部会事業）：子ども育成学部教員の講演、令和3年9月23日（木・祝）に決定。
- ・南砺市との連携協議会：南砺市からの事業提案2件における本学学生への依頼状況・対応等について、学生への一斉メール案内、問い合わせ締切、デザイン等締切を確認した。
- ・富山市との連携協議会
富山市長の交替があったことから、例えばタウンミーティング形式で市長と学生との話し合いの機会を計画するなど、富山市との連携協定（連携協力事項）を実施について協議した。

第5回地域交流センター会議

日 時：R3(2021)年 9 月 14 日（火）13:30～14:15

内 容：

- ・南砺市との連携協議会：「転入者むけノベルティ（クリアファイル表面）」デザイン（案と「SDGs リーフレット（小中学生向け）」（案）の学生への募集の結果、転入者むけノベルティは子ども育成学部生4名より、4点の提出あり、南砺市にて協議中。SDGs リーフレットは、現代社会学部生1グループ、子ども育成学部生1名より、各1点ずつの計2点の提出あり、子ども育成学部生の提出案で進めていくことが決定。
- ・「なんと学園祭」開催：本学の大学祭がオンライン開催を決定していることから、南砺市への学生・教職員が出向しての開催は難しいのではないかと、協力が可能な範囲では、パネル展示などが考えられる、などの意見があった。最終的に、短大との協議にて決定。
- ・富山市との連携協議会（短大との三者連携協定）：連携協議会開催方向での日程調整が必要であるが、大学内の組織改編を見据えながらの調整とし、今後の学内動向を確認しながら検討することとなった。
- ・組織改編に伴う各種委員会等の見直しについて：地域交流センターは教育研究部門へ

第6回地域交流センター会議

日 時：R3(2021)年 10 月 12 日（火）16:30～17:25

内 容：

- ・エクステンションカレッジ特別講演会について：今年度は開催する方向で、招聘講師の候補者を協議した。数名の候補者について優先順位を決め、センター長より講師依頼の連絡を取る事となった。
- ・南砺市との連携協定実施事業：今年度は、コロナ感染防止対策の強化により、イベント等の開催が厳しい状況。南砺市・短大・大学共同事業の「なんと学園祭」（仮称）の代替案について、南砺市側より代替案の検討依頼等があり、短大も含めての代替案提案となることから、メール審議等にて進める事となった。学生のアイデア募集での「SDGs リーフレット」作成案を採択された学生について、デザイン関連を専攻とした進路を希望しており、大学院受験等の報告があった。
- ・黒部市との連携協定実施事業：黒部商工会議所主催の「くろべ創業塾」（連携協定実施事業ではない）に、現代社会学部生の参加予定が確認された。また、黒部市商工観光課担当者より、包括連携に関する連絡協議会の協議会体制（会長：村上センター長、顧問：長尾名誉教授）について、商工関係か観光関係を専門の専任教員への協力依頼があり、本学教員を推薦。
- ・エクステンションカレッジ（中国語）長期受講生1名より、寄付依頼の申し出。

第7回地域交流センター会議

日 時：R3(2021)年 11 月 2 日（火） 16:30～17:05

内 容：

- ・南砺市との連携事業：学生アイデア募集の「転入者向けクリアファイル」の採択結果について、採用者の報告があった。
- ・「くろべ創業塾」（11/20,11/27 開催）：チラシ兼申込書の紹介があり、本学では東黒牧キャンパスでミニコンビニ経営に携わった現代社会学部のゼミ生 3～4 名が参加予定。

第8回地域交流センター会議

日 時：R3(2021)年 11 月 30 日（火） 16:30～17:15

内 容：

- ・R3 年度エクステンションカレッジ特別講演会について：東京オリンピック・パラリンピックの車いすバスケットで銀メダルを獲得された本学園 OB の岩井孝義が講師。対面式を希望。場所、PR 方法の検討が必要。
- ・自治体との連携：南砺市の政策推進課から富山県成長戦略ビジョンセッション（12/26(日)南砺市開催）への学生の参加依頼があり、学生課からメール案内にて参加協力依頼を行ったことの報告があった。
- ・「くろべ創業塾」（11/20,11/27 開催）：現代社会学部のゼミ生 4 名が参加。

第9回地域交流センター会議

日 時：メール審議

内 容：

R3 年度エクステンションカレッジ特別講演会について：富山県内は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開催見合わせとなった。

2. 今後の課題

- ・2021 年度は COVID-19 の影響で、「エクステンション・カレッジ」はオンラインでの実施となり、開講は語学講座（英語）のみとなった。一方で、地域交流センター事業以外にも、本学教員によるオンライン講座も複数実施されていたことから、2022 年度は、本学教員が関連する講座を把握することによって、効率よい運営が期待される。
- ・地域連携の活動は、教員ごとに行っており、全体的な把握と連携ができていない。2022 年度は、よりいっそう地域交流センターへの情報集約が望まれる。そのための仕組み作りが課題となる。地域活動等の窓口 1 本化をはじめ、各教員の地域活動などデータ検索にて一目でわかるようなシステム構築化の実現の検討が求められる。

3. アクションプランへの自己評価

（1）2021 年度実施内容と評価

指針 3(2)「夢へのかけ橋事業」では学部から 5 件の事業が実施され、大学オリジナル日本酒プロジェクトや TUINS サッカー教室など、学生による地域活動を促進することができた。

（評価：○）

（2）2022 年度実施予定項目

指針 3(2) 2021 年度成果を学生へ周知し、「夢へのかけ橋事業」で学部からの応募者が出るように、教員にも積極的に協力を呼びかける。

12. ホームページ・広報活動

1. 実績・現状

(1) ホームページ

表 12-1 2021 年度のホームページへのアクセス件数(注 1)

年度	年間アクセスユーザ数	年間訪問件数	年間ページビュー数
2021 年度	約 110 千件	約 238 千件	約 780 千件

表 12-2 2020 年度までの参考値 (注 2)

年度	年間アクセス件数	一日平均件数	増減率 (前年比)
2014 年度	約 490 万件	約 13,400 件	約 13%増
2015 年度	約 467 万件	約 12,800 件	約 5%減
2016 年度	約 473 万件	約 13,000 件	微増
2017 年度	約 505 万件	約 13,800 件	約 7%増
2018 年度	約 720 万件	約 19,700 件	約 43%増
2019 年度	約 900 万件	約 28,500 件	約 45%増
2020 年度	約 570 万件	約 16,000 件	約 37%減

(注 1) 2020 年度 (2020 年 10 月) にクラウド型ウェブサーバに移行したため、新たに Google Analytics による集計に変更した。各アクセス件数には画像、PDF ファイル等を含む。なお 2021 年度の計測期間は、2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までである。

(注 2) 2020 年度以前のアクセスデータは、オンプレ型ウェブサーバのアクセスログ解析によるものである。(2020 年度アクセス件数には、新サーバへのアクセス数は含まれていない。)

表 12-3 ニュース&イベントへの投稿件数

年度	大学計	現代社会学部	子ども育成学部	各センター等
2014 年度	285	95	88	102
2015 年度	235	79	75	81
2016 年度	210	75	65	70
2017 年度	190	84	39	67
2018 年度	218	84	76	58
2019 年度	216	106	47	63
2020 年度	73 125 (新サーバ)	19	12	42
2021 年度	167 (注)	(未取得)	(未取得)	(未取得)

(注) 2020 年 10 月以降の投稿は新ウェブサーバでの集計。ただしウェブサーバの機能上、学部・センター毎の集計ができないため、大学計のみを記載した。

表 12-4 ホームページの更新

年度	更新内容
2014 年度	専攻別のページの更新に取り掛かった。それぞれの専攻のカリキュラム概要、就職先、先輩からのメッセージ等の内容を更新した。
2015 年度	各専攻のページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新のみ。
2016 年度	各専攻・各センターのページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新のみであった。
2017 年度	各専攻・各部署のページ、カリキュラム、教員紹介、紀要データなどの更新。2018 年度開設の新専攻 (英語国際キャリア) のページを追加。シラバスは別サーバに移転。

2018 年度	経常的な更新に加えて、英語国際キャリア専攻のページの充実、および経営情報専攻の情報系科目を充実させるなど、新カリキュラム関係のページを追加した。
2019 年度	昨年度に引き続き経常的な更新を実施。新カリキュラムの導入に伴い、カリキュラムツリーを充実させた。
2020 年度	引き続き経常的な更新を実施（2020 年 10 月まで）。 2020 年 10 月にクラウド型のウェブサーバに移行し、アクセス効率の向上を図った。
2021 年度	クラウド型の新サーバに移行し、WORDPRESS を利用した修正が可能となったため操作性が向上した。また業者のサポート体制も向上してきめ細かい情報修正が可能となった。

（２）新聞

表 12-5 現代社会学部に関する記事掲載件数

年度	大学・学部・OB	学生の活動	教員の活動	計	備考
2018 年度			5	5	北日本新聞世界遺産シリーズ
2019 年度			3	3	北日本新聞砂防シリーズ
2020 年度		3	5	8	北日本新聞、富山新聞、読売新聞
2021 年度	39	28	16	83	2021 年 4 月～2022 年 3 月までのすべての新聞が対象

（３）放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）

表 12-6 放送で取り上げられた件数

年度	テレビ	CATV	ラジオ	備考
2018 年度	4		専任教員（4/月）	FM 富山
2019 年度			専任教員（4/月）	FM 富山
2020 年度			専任教員（4/月）	FM 富山
2021 年度	専任教員 5	専任教員 2	専任教員 1	

2. 今後の課題

（１）ホームページ

2020 年 10 月に大学公式ウェブサーバをこれまでのオンプレミス（大学所有方式）からクラウド型に移行し、ホームページデザインを一新した。これによってホームページの変更方法が大きく変わり、Wordpress というオーサリングツールによるリモート修正が可能となった。当初はその操作に慣れるため変更が遅滞したが、徐々に操作にも慣れて 2021 年度は引き続き入試広報課が中心となって更新に努めてきた。

表 12-1 と表 12-2 にホームページへのアクセス件数を示す。ウェブサーバのクラウド化に伴ってアクセス件数のカウント方法が変わったため、オンプレミス時代との単純な比較はできない。一方でアクセス内容の解析が可能となり、例えば図 12-1 に示すとおり、アクセスユーザの多くが mobile 端末（携帯など）からアクセスしている事が読み取れる。また年間のアクセス頻度をみると 4 月と 1～2 月に

デバイス カテゴリ	集客
	ユーザー ↓
	110,743 全体に対する割合: 100.00% (110,743)
1. mobile	74,357 (66.02%)
2. desktop	35,749 (31.74%)
3. tablet	2,527 (2.24%)

図 12-1 デバイスカテゴリ別アクセス数

アクセス頻度が高くなっていることも読み取れた（図 12-2）。今後はアクセス動向分析による、効果的な情報公開の手順を開発していきたいと考えている。

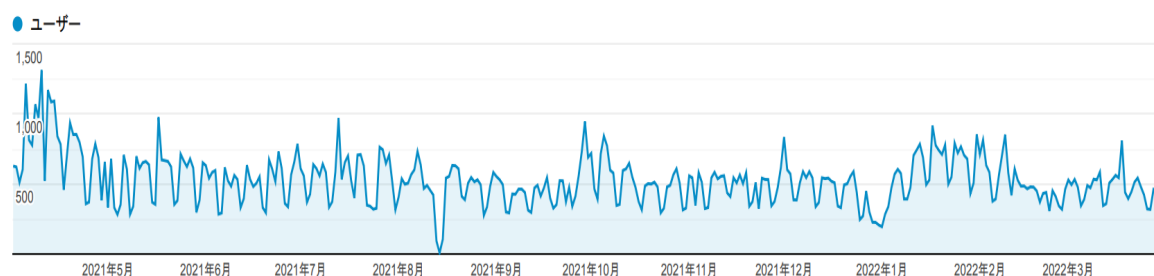


図 12-2 年間を通じたアクセス数の推移

（２）新聞

2020 年度に新規に作成された「報道機関発表様式」を活用し、大学の活動を積極的に対外発信するよう学内で促進してきた。また掲載記事の管理として総務課において詳細に新聞記事をチェックし、そのデータ集約を 2020 年（令和 2 年）から進めてきた。現在は新聞掲載記事ができる限り漏れなく切り抜かれ、電子データとして蓄積されるに至っている。また、必要に応じて学内に掲示され、教職員や学生の目に触れる機会を増やしている。そのため、昨年度までと比較すると圧倒的に記事数が増えているように見えるが、これは調査対象を広げたことによるものが大きい（表 12-5）。

（３）放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）

2019 年度から続いていた、FM 富山への専任教員（英語国際キャリア）の出演が、2021 年 3 月に終了した（表 12-6）。一方、レギュラー番組以外にはニュース報道などで教員が登場するケースは散見されているが、正確に状況把握が行われていない。2022 年度以降は広報センターにおいて状況把握に努めることとしたい。

3. アクションプランへの自己評価

（１）2020 年度実施内容と評価

指針 4 (1)

- ・大学案内、ホームページを利用してアピールした。SNS の利用は少なかった。（評価○）
- ・大学案内において、巻頭に卒業生ページを設け、なりたい自分になれた学生たちを紹介した。産学官連携や学外実習などの教育実績などをチラシ、DM、新聞、ホームページなどで積極的にアピールした。（評価○）

指針 4 (2)

大学ホームページや新聞・テレビ等を活用した教育・研究等の情報発信を促進した。
SNS や Youtube の利用は、専従の更新スタッフがいないため思うほどできなかった。
（評価○）

（２）2021 年度実施予定項目

指針 4 (1)

- ・大学案内、ホームページ、SNS 広告などを利用してアピールする。
- ・全面改訂予定の大学案内やホームページ、テレビ、チラシ、DM、新聞などで、「なりたい自分になれた卒業生」たちを紹介し、産学官連携やフォーラム異文化研修、留学、学外実習などの教育実績やなども、積極的にアピールする。

指針 4 (2)

- ・大学ホームページや新聞・テレビ等を活用し、教育・研究等の情報発信を促進し、大学のイメージアップや学生確保につなげる。ホームページの年度更新をしっかりと行い、大学の取り組みがより明確にわかるよう工夫する。また SNS や Youtube を利用した大学の取り組みの PR を充実させる。

13. 研究活動

1. 学会発表、論文発表および著書

1.1 学会発表

1. Shin Kawano, Shujiro Okuda, Yuki Moriya, Daiki Kobayashi, Atsushi Hatano, Tomoyo Takami, Masaki Matsumoto, Yoshinori Yamanouchi, Norie Araki, Akiyasu C. Yoshizawa, Tsuyoshi Tabata, Mio Iwasaki, Naoyuki Sugiyama, Susumu Goto, Yasushi Ishihama, “The Journal of Proteome Data and Methods: An Open Access Journal for Proteome Data”, 10th Asia-Oceania Human Proteome Organization Congress, 2021.6.30-7.2, Online, Poster
2. 河野信「jPOST の現状とプロテミクスデータの標準化に向けた国際連携」日本プロテオーム学会 2021 年大会、2021 年 7 月 19 日・21 日、オンライン、招待講演
3. 有馬佳奈美、岡本瑠璃、小林大樹、吉沢明康、河野信「jPOSTrepo メタデータの SDRF 化」トーゴの日シンポジウム 2021、2021 年 10 月 5 日、オンライン
4. 吉沢明康、守屋勇樹、小林大樹、奥田修二郎、田畑剛、河野信、幡野敦、高見知代、松本雅記、山ノ内祥訓、荒木令江、岩崎未央、杉山直幸、福島敦史、田中聡、五斗進、石濱泰「jPOSTprime: COVID-19 データベースの構築」トーゴの日シンポジウム 2021、2021 年 10 月 5 日、オンライン
5. Mizuki Morita, Yusuke Inoue, Makoto Iwane, Kunihisa Kamikawa, Mayumi Kurata, Arihiro Kohara, Yoshihiro Sumita, Tomoyo Takeuchi, Hiroshi Nishihara, Akiko Hinomura, Takayuki Morisaki, Seiya Imoto, Koichi Matsuda, Makoto Hirata, Hiroshi Yokota, Kichiya Suzuki, Kinuko Ohneda, Fuji Nagami, Satoshi Nagaie, Yoshihiro Miyamoto, Kotaro Hattori, Tsutomu Tomita, Eisei Noiri, Ryo Matsumura, Reiko Miyahara, Koji Kitajima, Kouya Shiraishi, Shin Kawano, Hiroki Nakae, Masayuki Yoshida, Hiroko Kohbata, Manabu Muto, Shigemi Matsumoto, Johji Inazawa, Toshihiro Tanaka, Akira Takemoto, Hiroyuki Nishiyama, Toshihisa Takagi, Yoshinori Murakami, Yuichi Goto, Soichi Ogishima, “Challenges in Utilizing Biobanks and Efforts to Solve Them in Japan”, European Biobank Week 2021, 8-10 November 2021, Online, Poster
6. Tim Van Den Bossche, Eric W. Deutsch, Yasset Perez-Riverol, Jeremy Carver, Shin Kawano, Luis Mendoza, Ralf Gabriels, Pierre-Alain Binz, Benjamin Pullman, Zhi Sun, Jim Shofstahl, Wout Bittremieux, Tytus D. Mak, Joshua Klein, Yunping Zhu, Henry Lam, Juan Antonio Vizcaíno, and Nuno Bandeira, “The HUPO-PSI Universal Spectrum Identifier (USI) for mass spectra”, HUPO reconnect 2021, 15-19 November 2021, Online, Poster
7. 一井崇「ユニバーサルツーリズムにおける『心のバリアフリー』の課題と展望—富山県における『触れて感じるモニターツアー』からの一考察—」日本観光学会(第 114 回大会、2021 年 7 月 10 日、オンライン開催)
8. Tingchang Liang “How Entitativity Influences Sharers’ Attitude in Intergroup Communication: Focusing on eWOM Communication between Chinese and Japanese Consumers”, アジア市場経済学会第 25 回全国研究大会, 2021 年 7 月 3 日、オンライン
9. 田原静、張婧、梁庭昌、村松潤一「情報信託に対する消費者の認知・受容と制度的課題 — 企業との価値共創経験に着目して —」日本マーケティング学会 カンファレンス 2021、2021 年 10 月 17 日、オンライン
10. 櫛引素夫、三原昌巳、大谷友男「新幹線と地域医療の関係性—新青森駅前の事例」日本地理学

会秋季学術大会一般研究発表、2021年9月18日、オンライン

11. 三原昌巳、櫛引素夫、大谷友男「地方総合病院における医療従事者確保の動向—上越および北信医療圏の事例」日本地理学会春季学術大会一般研究発表、2022年3月20日、オンライン
12. 佐藤悦夫(2022)「メキシコ、テオティワカン遺跡の起源に関する研究～土器の分析から～」新学術第5回全体会議、ポスター発表(2022年1月)
13. 伊藤葵「活動領域特化型中間支援組織における支援内容の変化と機能の移管」非営利法人研究学会第25回大会、関西大学、2021年9月25、26日WEB開催
14. 川本聖一、屋根材の地域性に関する研究、日本建築学会 2021年度大会学術講演会、2021年9月
15. 川本聖一、「高齢化」する住宅地をサステナブルにするための調査報告、日本建築学会北陸支部 2021年度北陸支部総会・大会学術講演会、2021年7月
16. 川本聖一、住宅設備委員会 災害に強い住宅・住宅設備検討小委員会中間報告、空気調和衛生工学会、2021年度空気調和衛生工学会・大会学術講演会、2021年9月
17. 佐藤綾子、「地方議会の予算・決算サイクルにおける情報ニーズ —甲府市議会新型コロナウイルス感染症対策特別委員会の事例—」第18回日本政府会計学会東日本研究部会、2021年11月27日

1.2 その他の発表・報告

1. 新森昭宏、「IR データから見た富山国際大学の状況」、一般社団法人 学修評価・教育開発協議会 IR 研修会、2021年8月27日。
2. 新森昭宏、「富山国際大学における ICT を活用した授業の実践例」、一般社団法人 学修評価・教育開発協議会 2021年度第五回共同 FD/SD 研修会、2021年12月24日。
3. 新森昭宏、「DX の動向について—地域における DX の推進に向けて」、一般社団法人 富山県情報産業協会 技術・研修委員会 技術講演会、2022年2月3日。
4. 大谷友男・九州経済調査協会事業開発部 記者発表「新型コロナウイルス感染拡大下での富山・北陸における大型連休までの宿泊稼働指数」、2021年5月12日
5. 大谷友男・九州経済調査協会事業開発部 記者発表「新型コロナウイルス感染拡大下での富山・北陸における五輪連休・お盆の宿泊稼働指数」、2021年8月18日
6. 大谷友男、「新幹線開業による長崎県の変化を地域活性化にどう活かすか」長崎県 令和4年秋開業！西九州新幹線シンポジウム パネルディスカッション、2021年10月9日
7. 大谷友男、「東九州新幹線整備により期待される効果～九州新幹線全線開業10年の効果から見えること～」、大分県東九州新幹線整備推進期成会 シンポジウム 基調講演、2021年11月17日
8. 大谷友男、「東九州新幹線への期待と大分の未来」大分県東九州新幹線整備推進期成会 シンポジウム パネルディスカッション、2021年11月17日
9. 大谷友男、「九州新幹線全線開業10年から見る地域への効果と課題」、北海道新幹線建設促進札幌圏期成会 特別講演会、2022年3月29日
10. 川本聖一、地域の人々と共に進める空家リノベーション、富山県下新川建築士会講演会、2021年11月13日
11. 川本聖一、地域の人々と共に進める空家リノベーション、富山県中山間地域サポート人材育成研修講演会、2021年7月30日

1.3 著書

1. 上坂博亨、「地域で生かす小水力発電」、建設ジャーナル、2021年7月号、No.1318, pp.24
2. 川本聖一、とやまゼミナール「住宅の特徴」、北日本新聞連載、2021年11月～12月

1. 4 学術論文

1. Eric W Deutsch, Yasset Perez-Riverol, Jeremy Carver, Shin Kawano, Luis Mendoza, Tim Van Den Bossche, Ralf Gabriels, Pierre-Alain Binz, Benjamin Pullman, Zhi Sun, Jim Shofstahl, Wout Bittremieux, Tytus Mak, Joshua Klein, Yunping Zhu, Henry Lam, Juan Antonio Vizcaino, Nuno Bandeira, “Universal Spectrum Identifier for mass spectra”, *Nature Methods*, 18 (7), 768–770 (2021) 【査読あり】
2. Richard D LeDuc, Eric W Deutsch, Pierre-Alain Binz, Ryan T Fellers, Anthony J Cesnik, Joshua A Klein, Tim Van Den Bossche, Ralf Gabriels, Arshika Yalavarthi, Yasset Perez-Riverol, Jeremy Carver, Wout Bittremieux, Shin Kawano, Benjamin Pullman, Nuno Bandeira, Neil L Kelleher, Paul M Thomas, Juan Antonio Vizcaíno, “Proteomics Standards Initiatives ProForma 2.0 Unifying the encoding of Proteoforms and Peptidoforms”, arXiv, 2109.11352
3. Richard D LeDuc, Eric W Deutsch, Pierre-Alain Binz, Ryan T Fellers, Anthony J Cesnik, Joshua A Klein, Tim Van Den Bossche, Ralf Gabriels, Arshika Yalavarthi, Yasset Perez-Riverol, Jeremy Carver, Wout Bittremieux, Shin Kawano, Benjamin Pullman, Nuno Bandeira, Neil L Kelleher, Paul M Thomas, Juan Antonio Vizcaíno, “Proteomics Standards Initiatives ProForma 2.0 Unifying the encoding of Proteoforms and Peptidoforms”, *Journal of Proteome Research*, in press, doi:10.1021/acs.jproteome.1c00771 【査読あり】
4. 一井崇(2021)「観光と福祉の連携を通じた地域振興の課題—京都府与謝野町「与謝野ブランド戦略」に着目して—」,pp.162-180,『コミュニティ政策 19』 【査読あり】
5. 一井崇(2021)「施設コンフリクト問題を通じた地域社会の質的变化に関する研究—京都府北部・旧野田川町における障害者施設「夢織りの郷」設立をめぐる住民運動に着目して—」,pp.31-49,『立命館産業社会論集』第 57 巻第 2 号 【査読あり】
6. Tingchang Liang, Zhao Lin and Toshihiko Souma, “How Group Perception Affects What People Share and How People Feel: The Role of Entitativity and Epistemic Trust in the “Saying-Is-Believing” Effect”, *Frontiers in psychology*, 4290, doi:10.3389/fpsyg.2021.728864 【査読あり】
7. 梁庭昌「実体性が共有者自身のクチコミ対象への態度に及ぼす影響—中国の「弹幕」利用者を中心に—」 アジア市場経済学会年報第 24 巻, doi:10.20766/jafame.24.0_109 【査読あり】
8. 田原静、張婧、梁庭昌、村松潤一「情報信託に対する消費者の認知・受容と制度的課題 — 企業との価値共創経験に着目して —」『マーケティングレビュー』 Vol.3 No.1 (2022), pp.12-19, doi:10.7222/marketingreview.2022.002 【査読あり】
9. 櫛引素夫、三原昌巳、大谷友男「北海道新幹線が青森市の地域医療にもたらした変化-青森新都市病院の事例と今後の展望-」地域社会研究（弘前大学大学院地域社会研究科）第 15 号, p p.1-14
10. 佐藤悦夫 （2022） 「形成期のメキシコ盆地における土器の器種と文様の変化について」季刊考古学 別冊 36 号 心とアートの人類史, 1106-115, 雄山閣
11. 川本聖一,「高齢化」する住宅地をサステナブルにするための調査報告, 日本建築学会北陸支部 2021 年度北陸支部総会・大会論文集, 2021 年 7 月
12. 仲野 純章, 繁宮 悠介, 松浦 哲郎 (2021) 研究初心者に向けた研究プロセス標準化の必要性 --中等教育段階での研究機会の拡大を見据えて, 長崎総合科学大学紀要, 61 巻 1 号, pp. 37-43
13. 山田由香里, 藤田謙一, 繁宮悠介, 田中翔大 (2022) 対馬の石屋根倉庫を通してみる地域的持続性の技術と知恵, 地域論叢（長崎総合科学大学地域化学研究所紀要）37 巻, pp. 19-38

2. 紀要執筆状況

2021 年度 第 14 巻第 1 号（2021 年 10 月発行）

<論文>

(1) 川本聖一, 屋根材の地域性に関する研究, 14(1), pp.1-8

(2) 佐藤悦夫・青石歩実・岡部彩音・門嶋梨穂・黒田京香・接子豪・高村百花・ファム ホン タイ・二塚杏理・古川七海・吉野達裕, 黒部市宇奈月地域における観光客の動向に関する研究, 14(1), pp.9-24

<研究ノート>

(1) 大谷孝行, 続・吉本新喜劇における「型」をめぐる考察～1980 年代作品を中心に～, 14(1), pp.25-36

2021 年度 第 14 巻第 2 号（2022 年 3 月発行）

<論文>

(1) 繁宮悠介・上坂博亨, カワヤナギの年輪画像解析による材の肥大成長率の推定, 14(2), pp.1-8

(2) 新森昭宏, デジタルトランスフォーメーション（DX）の動向について―地域における DX の推進に向けて, 14(2), pp.9-19

<研究ノート>

(1) 川本聖一・田村彩貴, 地域の人々と進める空家リノベーション その 4 ―地域の人々との協働の記録―, 14(2), pp.21-36

3. 競争的資金等による採択研究の概要

3. 1 再委託研究開発費

高木 ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業

河野 ライフサイエンスデータベース統合推進事業

3. 2 科学研究費助成事業等

一井 【代表】ユニバーサルツーリズムの新たな展開と雇用を通じた地域形成に関する研究

河野 【代表】質量分析によるアミノ酸配列 de novo 決定のための新規手法開発

繁宮 【代表】科学館における会話から明らかにする科学的思考を誘発する展示の特徴

梁 【代表】クチコミ発信によるブランドコミットメントとロイヤルティの強化効果

高木 【分担】情報・システム研究機構国立遺伝学研究所

浦山 【分担】中部大学（2 件）

浦山 【分担】武庫川女子大学短期大学部

佐藤悦 【分担】岡山大学（2 件）

大谷友 【分担】青森大学

尾畑 【分担】富山高等専門学校

3. 3 富山県ひとづくり財団

2 号 地方におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展にむけて

5 号 学生募集確保事業

3. 4 富山第一銀行奨学財団

川本 地域の人々と共に進める空家再生

伊藤 地域課題解決に向けたステークホルダー・マネジメントにおける境界連結単位の役割

梁 空気を読む；クチコミ発信が発信者自身の顧客経験に及ぼす影響

3.5 その他の共同研究・研究事業

- | | |
|----|---|
| 新森 | インテック共同研究「大規模システム開発における IT ベンダーの社会的役割と責務」 |
| 川本 | 射水市太閤山千成商店街活性化に関する研究 |
| 川本 | 北陸地域活性化研究助成 「地域の人々とともに進める空家コンバージョン―休耕田でのブドウ栽培のワインによる地域活性化―」 |
| 上坂 | 北陸地域活性化研究助成 「黒部川高水敷樹林の資源化による持続可能な脱炭素化とレジリエンス向上」 |

4. 評価と課題

学会発表の件数は 17 件であり、2020 年度の 12 件からやや増加した。学術研究論文数では、2020 年度が 11 件であったのに対して、今年度は 13 件であり、ここでもやや増加している。科研費採択件数は、2017 年、2018 年においては新規採択はゼロ件、2019 年度、2020 年度には 1 件であったが、今年度は新規 2 件を含む代表研究が 4 件、さらに分担研究が 8 件とやや活発化の兆しを見せている。昨年度は新型コロナ蔓延の影響を受けて研究のアクティビティーにおいても若干の低下がみられたが、今年度はやや回復し研究面でも活性を取り戻しつつあるとみられる。しかしながら、その一方で本学紀要への投稿については、2020 年度が論文、研究ノートをあわせて 6 件に対し、今年度も同様に 6 件であり、紀要投稿数として低調と言わざるを得ない。せめて半数の教員が紀要に投稿できるように活性化に努めて行きたい。

14. 後援会・保護者対応

1. 実績と現状

(1) 後援会理事会・後援会総会

後援会総会への申込者数は2017年度が特に多かったが、2019年度は会場を従来の市内ホテルから東黒牧キャンパスに変更し、多くの参加者があった。大学の取組みに対して保護者が高い関心をもっていることは例年どおりである。2021年度もコロナ禍のため対面での総会は、開催せずに郵送による審議を行った。

表 15-1 理事会・総会の実施内容

年度	理事会	総会
2017年度	平成29年6月24日（土） ホテルグランテラス富山 出席者数（理事）15名	平成29年6月24日（土） ホテルグランテラス富山 申込者数 120名
2018年度	平成30年6月23日（土） ホテルグランテラス富山 出席者数（理事）14名	平成30年6月23日（土） ホテルグランテラス富山 申込者数 83名
2019年度	令和元年6月14日（金） 富山国際大学呉羽キャンパス 出席者数（理事）11名	令和元年6月22日（土） 富山国際大学東黒牧キャンパス 申込者数 109名
2020年度	令和2年度6月18日（木） 富山国際大学呉羽キャンパス 出席者数（理事）13名	書面審議
2021年度	令和3年度7月2日（金） 富山国際大学呉羽キャンパス 出席者数（理事）23名	書面審議

(2) 保護者相談会

保護者相談会への申込者数は、2018年度から後援会総会時の相談者が大幅に増えていることが特徴で、教職員による個々の学生の指導の実態に対する保護者の関心の高さが伺える。2020年度、2021年度は、電話やZoomを使った相談会であったので参加者はやや減少した。

表 15-2 実施内容

年度	前期	後期
2017年度	後援会総会時（6月24日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 51名	大学祭時（10月28日・29日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに学 生に関するコメントを送付 相談者数 50名
2018年度	後援会総会時（6月23日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 70名	大学祭時（10月27日・28日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに学 生に関するコメントを送付 相談者数 35名

2019 年度	後援会総会時（6 月 22 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに 学生に関するコメントを送付 相談者数 71 名	大学祭時（10 月 26 日・27 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに学 生に関するコメントを送付 相談者数 37 名
2020 年度	新型コロナ感染防止のため開催せず	令和 2 年 10 月 19 日（月）～10 月 23 日（金）いずれも原則 17 時 00 分から 18 時 00 分までの間に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに学 生に関するコメント送付 相談者数：46 名
2021 年度	令和 3 年 7 月 15 日（木）～7 月 21 日 （水）いずれも原則 17 時 00 分から 18 時 00 分までの間に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに学 生に関するコメント送付 相談者数：38 名	令和 3 年 10 月 25 日（月）～11 月 5 日 （金）いずれも原則 17 時 00 分から 18 時 00 分までの間に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あてに学 生に関するコメント送付 相談者数：32 名

（３）同窓会

ここ数年、卒業生の出席数は 20 名程度であり、卒業生の大幅な出席数増には至っていない。

表 15-3 実施内容

年度	内容
2017 年度	平成 29 年 8 月 26 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 23 回総会および懇親会 出席者数 計 43 名 卒業生 22 名（人文 16、人文社会 1、地域 1、現代社会 4） 教育職員 14 名（大学長、短期大学長、現代社会 6、子ども育成 6） 事務職員 2 名 同窓会役員 5 名
2018 年度	平成 30 年 8 月 25 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 24 回総会および懇親会 出席者数 計 38 名 卒業生 21 名（人文 13、地域 1、国際教養 1、現代社会 5、子ども育成 1） 教育職員 9 名（現代社会 3、子ども育成 6） 事務職員 3 名 同窓会役員 5 名
2019 年度	令和元年 8 月 24 日（土）、オックスカナルパークホテル富山 第 25 回総会および懇親会 出席者数 計 33 名 卒業生 18 名（人文 10、地域 1、国際教養 0、現代社会 6、子ども育成 1） 教育職員 11 名（学長、現代社会 5、子ども育成 5） 事務職員 1 名 同窓会役員 3 名
2020 年度	新型コロナ感染防止のため開催せず。
2021 年度	新型コロナ感染防止のため開催せず。

2. 今後の課題

(1) 参加保護者との連携強化と情報伝達

後援会総会や保護者相談会には毎年多くの参加者があり、当該機会を教職員と保護者との対話・連携強化の場として今後とも活用する。出席された保護者に対して、総会では大学の頑張っている取組みを中心とした活動内容をしっかり伝達し、保護者相談会では、個々の学生に対するきめ細かな指導ぶりを伝えて、本学の面倒見の良さを伝える機会とする。

なお、2020 年度、2021 年度は、対面形式の後援会総会は開催されなかった。

(2) 同窓会出席者の増加

同窓会への卒業生の出席増加を図るためには、卒業生が大学とのパイプ作りを希望する必要がある、大学に何を望んでいるかを把握し、その要望に少しでも大学が応えてあげることが肝要である。大学が IT 化の更なる推進を掲げている一環として、卒業生の大学に対する要望を、紙媒体でなく通信の方法を使ってアンケート形式で吸い上げるとともに、例えばリカレント教育を通じて大学が、卒業生の職場で必要な知識や情報を提供できれば、卒業生とのパイプ強化につながる。

なお、2020 年度、2021 年度は同窓会に係る活動は実施しなかった。2022 年度には、同窓会のネットワーク形成について検討を開始する。